

App Bridge Transporter 利用ガイド

Ver. 1. 19. 0

目次

1. はじめに	1
1.1 本書の役割	1
1.2 前提ドキュメント	1
1.3 モジュールの前提条件	1
2. 概要	2
2.1 App Bridge Transporter とは	2
2.2 ファイル転送方式	3
2.3 安全性の確保	3
2.4 完全性の確保	4
2.5 容易な導入	4
2.6 ブラウザによる管理機能	5
3. システム構成	6
3.1 管理単位	6
3.1.1 データセット	6
3.1.2 アップロード履歴	6
3.1.3 ダウンロード履歴	7
3.2 ID 仕様	8
3.2.1 データセット ID	8
3.2.2 アップロード ID	8
3.2.3 ダウンロード ID	8
3.2.4 ホスト ID	8
3.2.5 ファイル ID	8
3.3 データセットタイプ	9
3.3.1 データセットタイプの種類	9
3.3.2 Standard の課金	9
3.3.3 Extension の課金	9
3.3.4 Extension のストレージ容量	10
3.3.5 Extension のストレージ削除	10
3.4 アップロード	11
3.4.1 アップロードモジュール	11
3.4.2 アップロードモジュールの障害検知	11
3.4.3 アップロードのハートビートエラー	11
3.4.4 アップロードのリラン指示	12
3.4.5 アップロードのリラン制御	12
3.4.6 アップロードサービスのファイル処理	13
3.4.7 アップロード速度の調整	13
3.5 ダウンロード	14
3.5.1 ダウンロードモジュール	14
3.5.2 パイプラインダウンロード	15
3.5.3 ダウンロードモジュールの障害検知	15
3.5.4 ダウンロードのハートビートエラー	15

3.5.5	ダウンロードのリラン指示	15
3.5.6	ダウンロードのリラン制御	16
3.5.7	ダウンロードファイルの処理	16
3.5.8	ダウンロード速度の調整	16
3.5.9	ダウンロードサービスの抽出範囲	17
3.6	暗号化方式	18
3.6.1	サーバサイド暗号	18
3.6.2	クライアントサイド暗号	18
4.	データセットの操作	19
4.1	ファイル転送設定サイトの表示	19
4.2	データセット登録 (Standard)	20
4.3	リンクユーザ設定	22
4.3.1	指定ユーザのみにアクセスを許可する	22
4.3.2	指定ユーザのアクセスを拒否する	25
4.4	Extensionの有効化	26
4.4.1	契約タイプの設定	26
4.4.2	ストレージの準備	27
4.4.3	アクセスキーの登録	27
4.5	データセット登録 (Extension)	28
5.	アップロードの操作	31
5.1	アップロードサーバの設定	31
5.1.1	モジュールインストール	31
5.1.2	ユーザアカウント設定	32
5.1.3	コマンドのパス確認と環境変数設定	33
5.1.4	サービスの起動	34
5.1.5	モジュールのアンインストール	35
5.1.6	モジュールのアップグレード	35
5.2	アップロードコマンド	36
5.2.1	コマンド様式	36
5.2.2	リターンコード	36
5.3	アップロードサービス	37
5.3.1	監視フォルダの登録	37
5.3.2	設定の保存と反映	38
5.3.3	Backup フォルダのファイル削除	39
5.4	アップロード履歴	40
5.5	アップロード情報	41
6.	ダウンロードの操作	42
6.1	ダウンロードサーバの設定	42
6.1.1	モジュールインストール	42
6.1.2	ユーザアカウント設定	43
6.1.3	コマンドのパス確認と環境変数設定	44
6.1.4	サービスの起動	45
6.1.5	モジュールのアンインストール	46

6.1.6 モジュールのアップグレード	46
6.2 ダウンロードコマンド	47
6.2.1 コマンド様式	47
6.2.2 リターンコード	47
6.3 ダウンロードサービス	48
6.3.1 監視データセットの登録	48
6.3.2 設定の保存と反映	50
6.4 代替文字列	51
6.5 ダウンロード履歴	52
6.6 ダウンロード情報	53

1. はじめに

1.1 本書の役割

本書は、App Bridge Transporter の概要、及びサービスを利用するための操作について記載しています。

1.2 前提ドキュメント

本書は、以下のドキュメントを前提に記載されています。本書をご覧いただく前にご一読下さい。

- App Bridge ファーストステップガイド
- App Bridge 管理者ガイド

1.3 モジュールの前提条件

App Bridge Transporter が利用者向けに提供するモジュールの対象 OS、前提条件は、以下のドキュメントに記載されています。

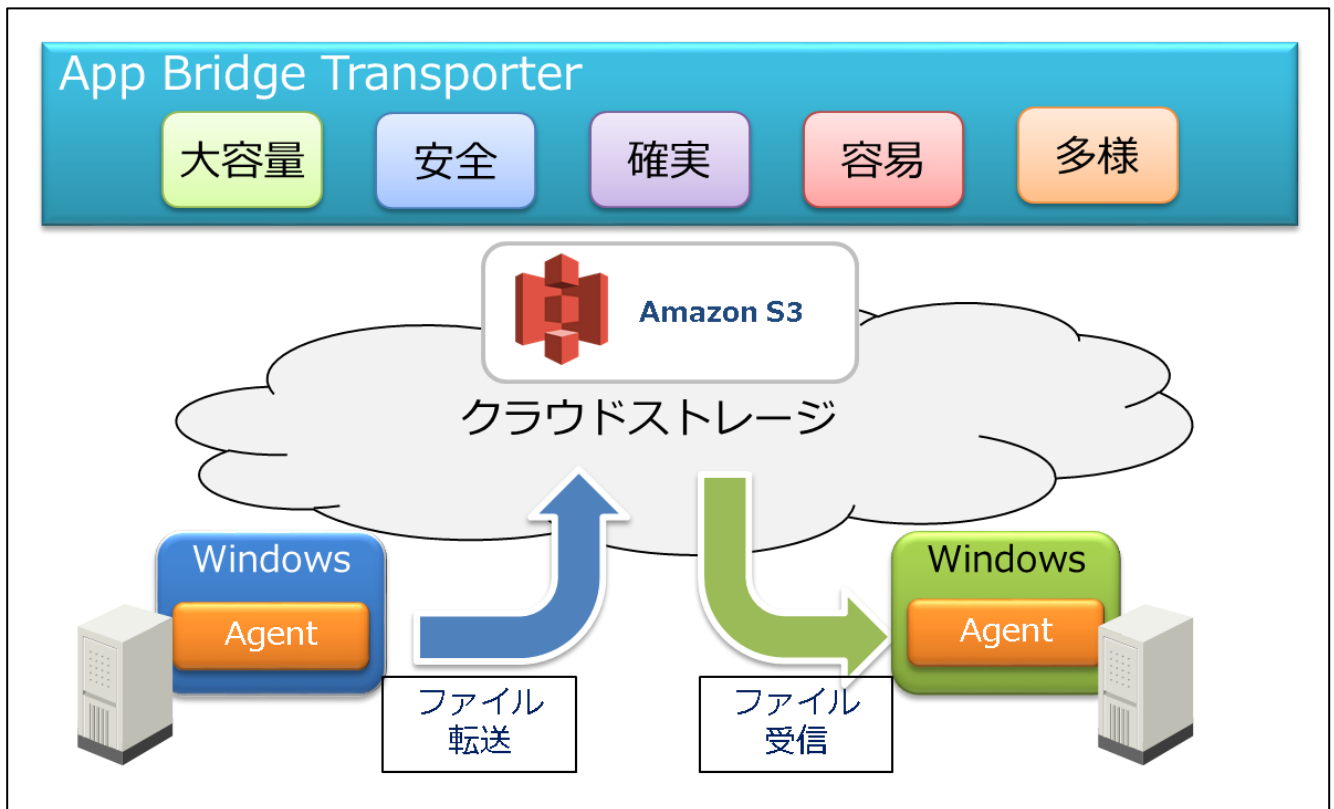
- Windows Agent サポートリスト

2. 概要

2.1 App Bridge Transporter とは

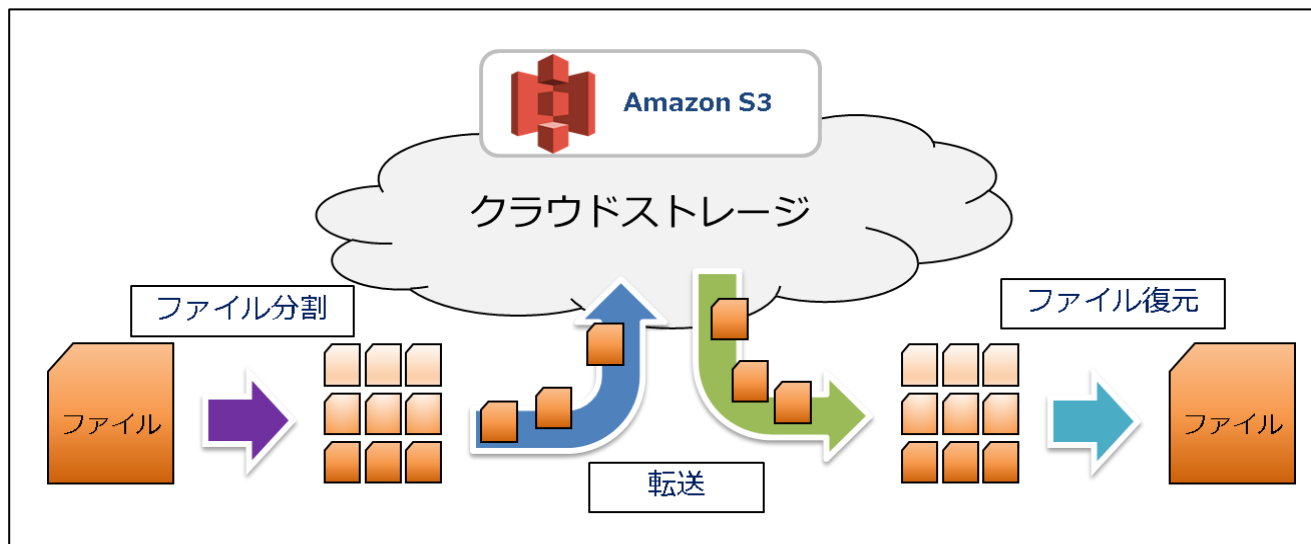
App Bridge Transporter（以下本サービス）は、クラウドストレージを使った新しいファイル転送サービスであり、次のような特長を有しています。

- 今まで難しかった GB～TB サイズの大容量ファイル転送を可能にします
- インターネットを介してのファイル転送を安全・確実に実現します
- センタへの HTTPS 通信のみを使用するため、導入が容易です
- ファイル転送ベースの開発、バックアップ運用など、様々な用途にご利用いただけます



2.2 ファイル転送方式

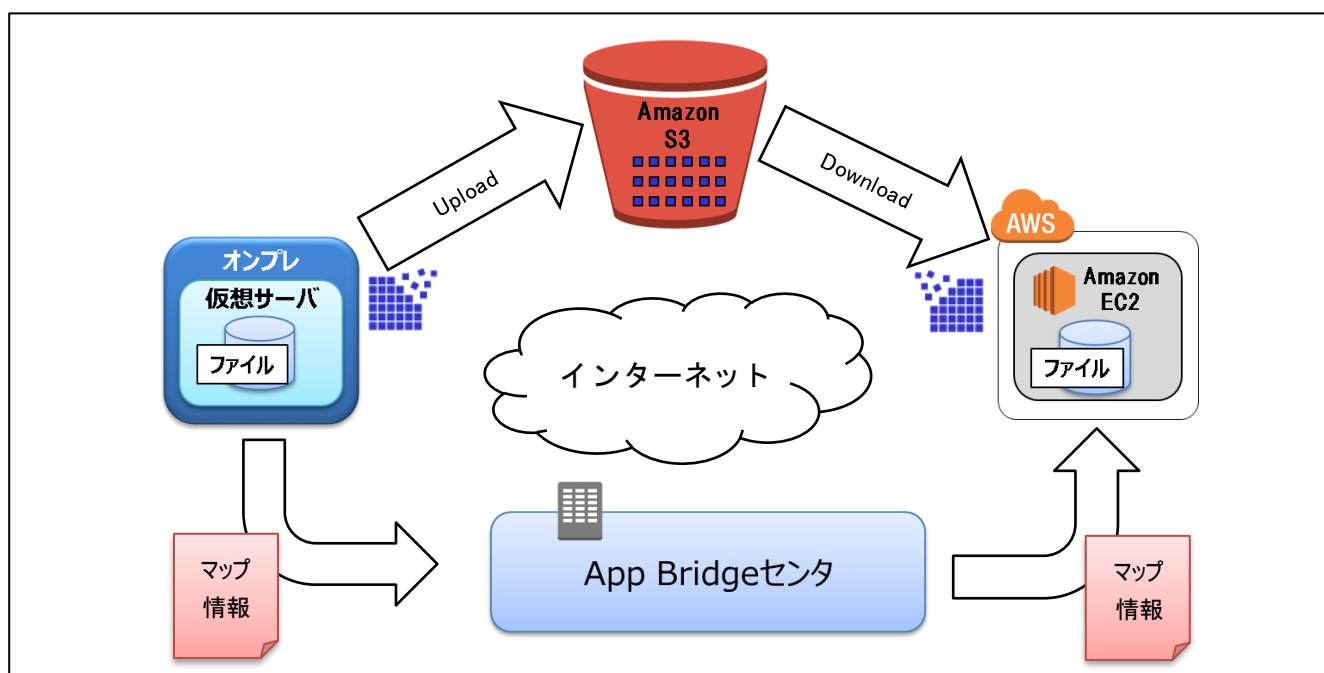
本サービスは、ファイルを小さな断片（ピース）に分割し、クラウドストレージに並列転送します。
このピースサイズと並列転送数を制御することで、目的の転送スピードに合わせたファイル転送を実現しています。



2.3 安全性の確保

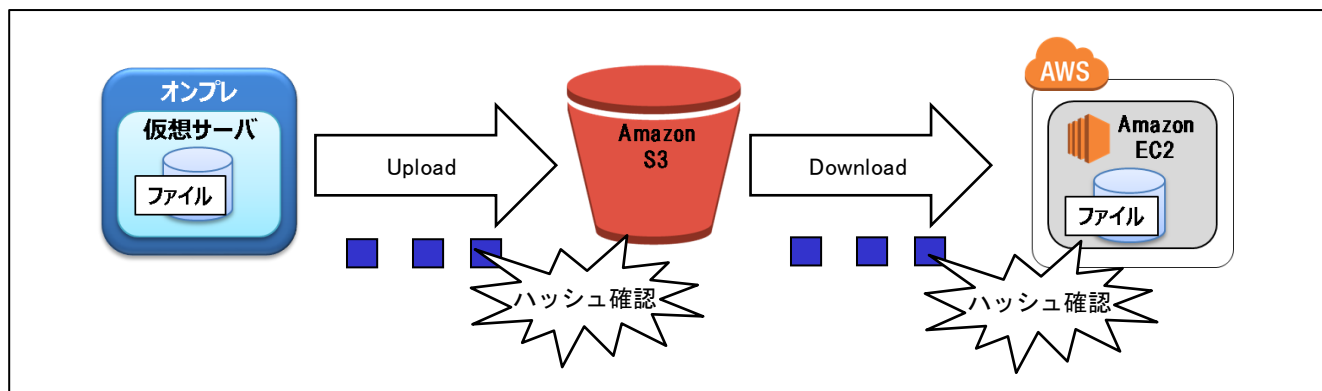
クラウドストレージに格納するピースは、ピースごとに生成した暗号キーで暗号化され、意味のない名称で保存されます。このため、第三者がピースから元データを生成することはできません。

ピースの名称、暗号キーなどが記載されたマップ情報は、当社センタで保管されています。ピースとマップ情報を異なる場所に保存することで、安全性を確保しています。



2.4 完全性の確保

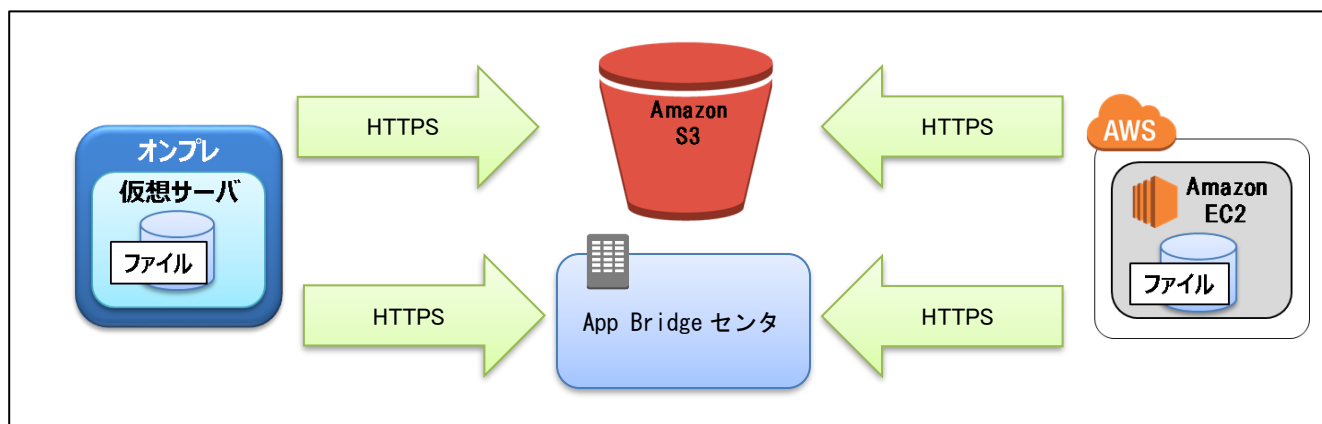
ピースのアップロード時にはクラウドストレージでハッシュを確認し、ダウンロード時には Agent でハッシュを確認します。ハッシュが一致しなければ当該ピースは再送対象となります。ピースごとの完全性を確保することで、ファイル全体の完全性を確保し、再送範囲も最小化しています。



2.5 容易な導入

ファイル転送に使用される通信は、センタに対する HTTPS 通信のみです。プロキシサーバにも対応しているため、既存のネットワーク環境を変更することなく、導入が可能です。

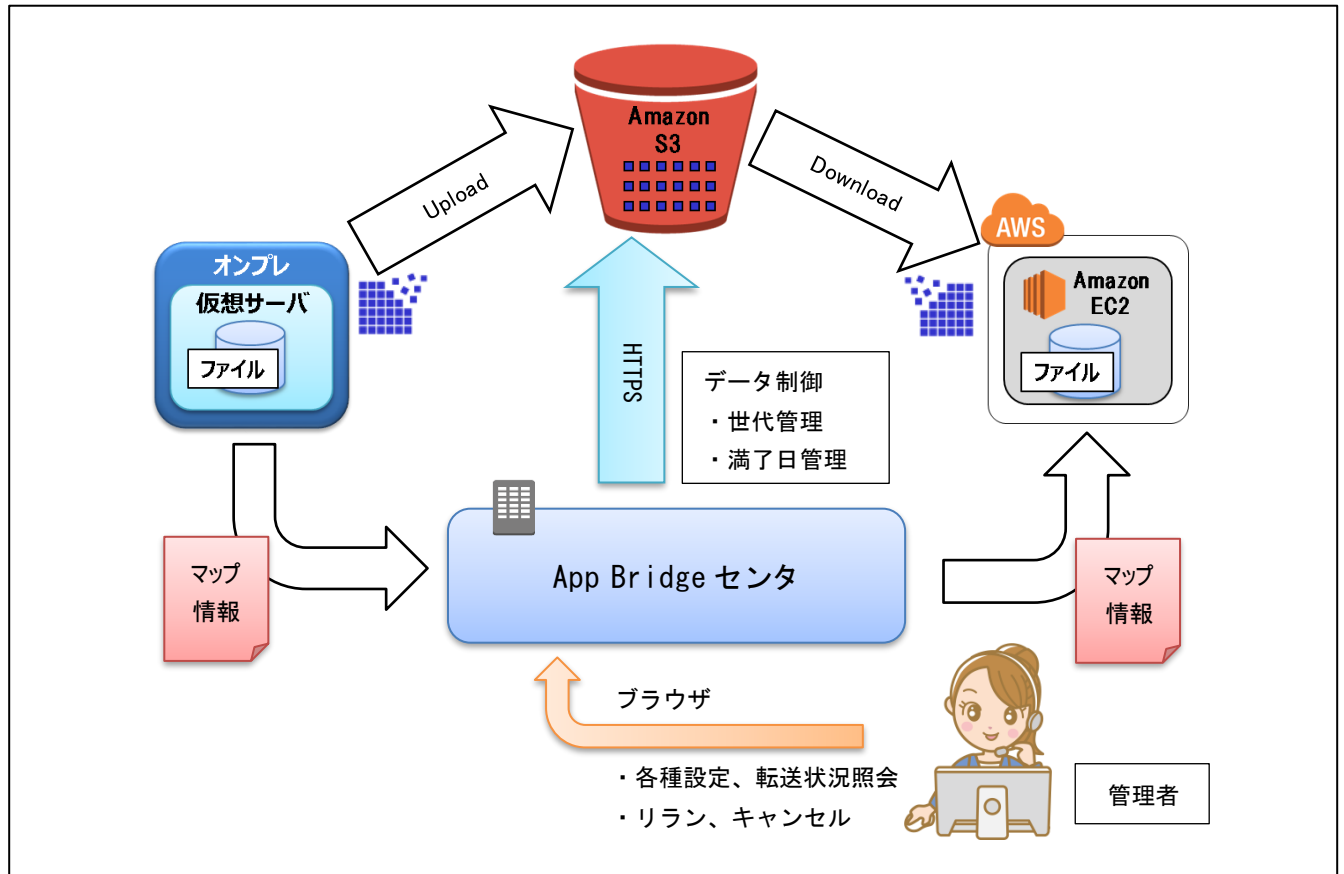
また、ファイル転送時に目標帯域の指定が可能であり、既存のインターネット帯域を使い切ることはありません。このため、既存のインターネット環境を変更することなく、ファイル転送を導入することができます。



2.6 ブラウザによる管理機能

本サービスの管理機能は、全てブラウザ経由で提供され、各種設定に加え、ファイル転送の状況照会、リラン、キャンセルを実施することができます。

アップロードされたデータは、事前の設定に従い、センタ側で世代管理、満了日管理が実施されます。



3. システム構成

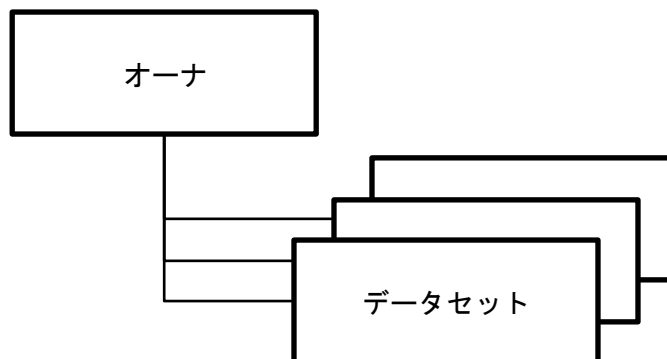
3.1 管理単位

本サービスでは、「データセット」、「アップロード履歴」、「ダウンロード履歴」を管理単位とします。

3.1.1 データセット

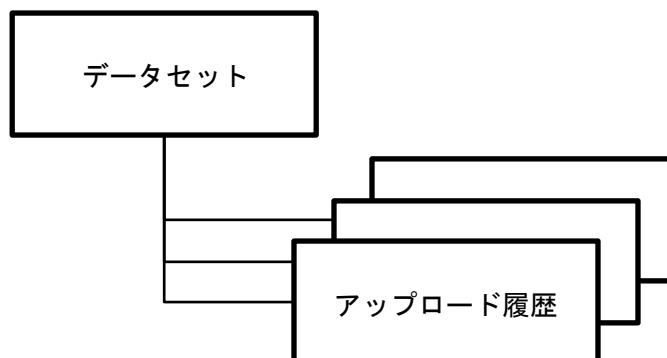
データセットは、転送するファイルの種類を表す単位であり、通常、「XXX データベースバックアップ」や「XXX 販売データ」などのファイル種類ごとにデータセットを作成します。オーナー内にデータセットを複数作成することができ、作成数に制限はありません。

データセットでは、世代数管理や満了期限などの属性を設定します。これにより、「XXX データベースバックアップは3世代管理する」、「XXX 販売データは30日間保管する」など、アップロードファイルの柔軟な管理が可能となります。



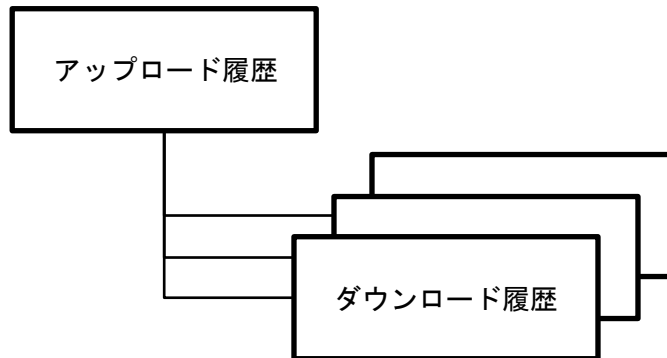
3.1.2 アップロード履歴

アップロード履歴は、アップロードを実行する度に作成される履歴情報です。アップロードを実施する際、対象のデータセットを指定します。作成されたアップロード履歴は、指定されたデータセットに從属します。1つのアップロード履歴は1つのアップロードファイルを指します。



3.1.3 ダウンロード履歴

ダウンロード履歴は、ダウンロードを実行する度に作成される履歴情報です。ダウンロードを実施する際、対象のアップロード履歴を指定します。作成されたダウンロード履歴は、指定されたアップロード履歴に従属します。同じアップロード履歴は、アップロードファイルが削除されない限り、何度でもダウンロード可能であり、ダウンロードする度にダウンロード履歴が作成されます。



3.2 ID 仕様

3.2.1 データセット ID

データセットを一意に識別するための ID です。データセット作成時に一意な ID として生成されます。

3.2.2 アップロード ID

アップロード履歴を一意に識別するための ID です。アップロード開始時に一意な ID として生成されます。

3.2.3 ダウンロード ID

ダウンロードを一意に識別するための ID です。ダウンロード開始時に一意な ID として生成されます。

3.2.4 ホスト ID

ホストを一意に識別するための ID であり、Windows SID を基準に生成されます。アップロードのリラン処理などで使用されます。

3.2.5 ファイル ID

ファイルを識別するための ID であり、以下の情報を基準に生成されます。アップロードのリラン処理などで使用されます。

- データセット ID
- ホスト ID
- ファイルパス
- ファイル作成日時

3.3 データセットタイプ

3.3.1 データセットタイプの種類

本サービスでは、方式の異なる2つのデータセットタイプ (Standard と Extension) を準備しています。データセットタイプは、前述のデータセットごとに設定することができます。

項目	データセットタイプ	
	Standard	Extension
使用するクラウドストレージ	本サービスが提供するストレージ	利用者が準備したストレージ
課金方式	標準課金	拡張課金
S3 Transfer Acceleration (※1)	不可	可

※1: S3 Transfer Acceleration は、長距離におけるファイル転送を高速に行うためのサービスです。
詳細は [Amazon S3 Transfer Acceleration](#) を参照下さい

3.3.2 Standard の課金

データセットタイプ Standard の課金 (標準課金) は、利用量に応じた従量課金です。利用料にはクラウドストレージ使用料、クラウドストレージのデータ通信料が含まれます。

項目	単位	単価	備考
ファイルアップロード料	回	1.0 円	アップロード成功分のみ課金
ファイル保管料	GB/日 (※1)	1.0 円	アップロード成功分のみ課金
ファイルダウンロード料	MB/回 (※2)	0.1 円	ダウンロード成功分のみ課金

※1: GB 未満の値は GB 単位に切り上げられます。この切り上げはアップロードごとに実施されます

※2: MB 未満の値は MB 単位に切り上げられます。この切り上げはダウンロードごとに実施されます

3.3.3 Extension の課金

データセットタイプ Extension の課金 (拡張課金) は、申し込まれた契約タイプに応じた月額利用料です。月途中で契約タイプを変更した場合、当該月の最後に設定された契約タイプで課金されます。

契約タイプ	月額利用料	月ごとのアップロード制約			月ごとのダウンロード制約		
		サーバ数	回数	転送量	サーバ数	回数	転送量
ミニマム	5,000 円	1 台	50 回	10 GB	1 台	200 回	40 GB
スモール	10,000 円	10 台	500 回	100 GB	10 台	2,000 回	400 GB
ミディアム	25,000 円	50 台	2,500 回	512 GB	50 台	10,000 回	2,048 GB
ラージ	50,000 円	100 台	5,000 回	1,024 GB	100 台	20,000 回	4,096 GB
なし	0 円	データセットタイプ Extension は利用できません					

利用開始時の契約タイプは「なし」となっています。データセットタイプ Extension を利用するためには、Web サイトでの設定変更が必要です。詳細は後述の「Extension の有効化」を参照下さい。

ラージ以上のファイル転送が必要な場合、個別見積での対応となります。ご希望の場合、App Bridge サポートまでご連絡下さい。

3.3.4 Extension のストレージ容量

データセットタイプ Extension のデータセットでアップロードを実行した場合、指定されたストレージにはアップロードされるファイル容量に加え、管理情報がアップロードされます。

管理情報のサイズは、ピース数などによって増減します。ファイルサイズ 1GB あたりの管理情報サイズは、最大で 35KB 前後です。

3.3.5 Extension のストレージ削除

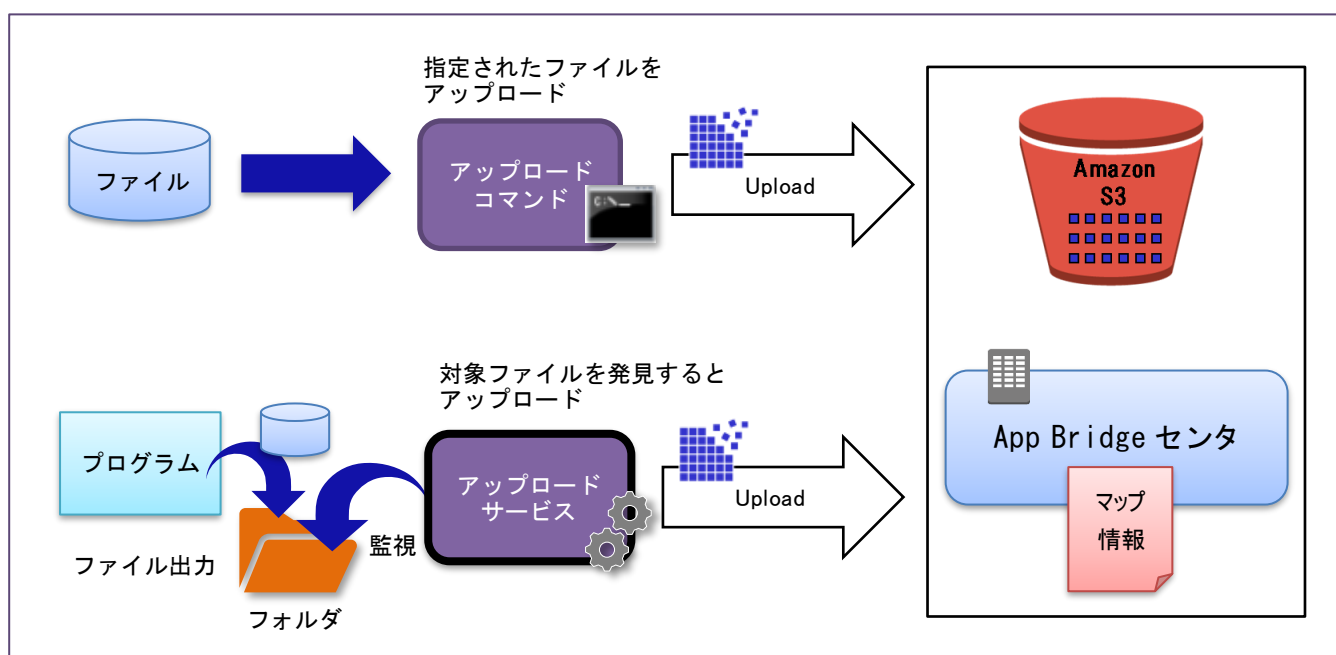
データセットタイプ Extension のアップロード履歴で、データ削除が確定されてから、ストレージ上のデータが削除されるまでには、数分から数時間のタイムラグが発生します。

3.4 アップロード

3.4.1 アップロードモジュール

本サービスでは、利用者向けに2つのアップロードモジュールを提供しています。2つのモジュールのアップロード機能に差はありません。

モジュール	機能	利用場面
アップロードコマンド	指定されたファイルを指定されたデータセットへアップロードします	スクリプトなどに組み込まれたアップロードを想定しています
アップロードサービス	指定されたフォルダを監視し、対象ファイルを発見すると、当該ファイルを事前に指定されたデータセットへアップロードします	ファイル作成をトリガーとするアップロードを想定しています



3.4.2 アップロードモジュールの障害検知

アップロードモジュールで障害を検知した場合、イベントログ/アプリケーションに Error ログを記録します。App Bridge Monitor などの監視ツールを使用し、イベントログ/アプリケーションの Error ログ発生を監視することで障害を検知することができます。

3.4.3 アップロードのハートビートエラー

アップロードモジュールは、アップロードを開始すると、一定間隔で進捗状況を App Bridge センタに送信します。

App Bridge センタでは、アップロードモジュールの進捗情報送信が途切れると、ハートビートエラーを発生させます。発生したハートビートエラーは、App Bridge Monitor を通じて通知されます。通知先や通知方法は App Bridge Monitor で変更することが可能です。

3.4.4 アップロードのリラン指示

アップロードが失敗した場合、アップロード履歴に対し、Web サイトからリランを指示できます。アップロードのリランは、前回アップロード状態を引き継ぎ、アップロード済みピースを再アップロードしません。これにより、大容量ファイルのリラン時間を短縮することができます。

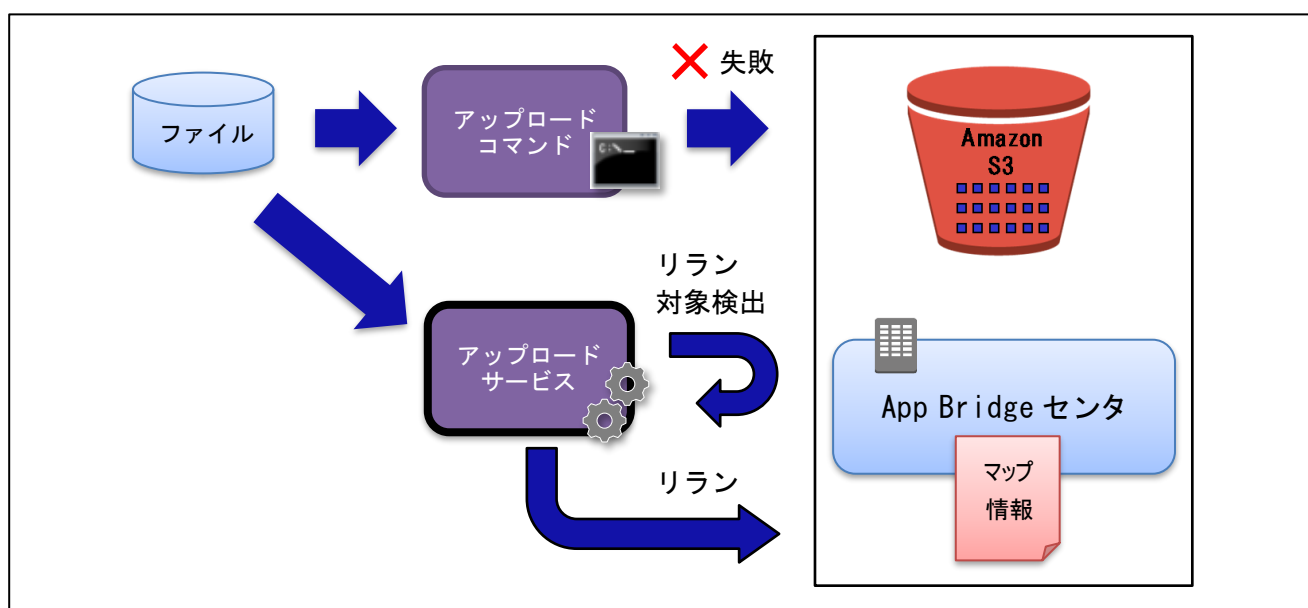
アップロードのリランを実施するには、以下の条件を満たす必要があります。

- アップロード失敗から 8 時間以上経過していない
- アップロード対象ファイルが変更されていない（ファイルサイズ、作成日時、更新日時が一致する）

3.4.5 アップロードのリラン制御

アップロードのリランは、アップロードサービスが実施します。アップロードコマンドが実施したアップロード履歴に対してリランを指示した場合でも、アップロードサービスがリランを実施します。このため、リランを実施するには、アップロードが失敗したサーバでアップロードサービスが稼働している必要があります。

アップロードサービスは、定期的に App Bridge センタにアクセスし、同じホスト ID を持つリラン対象のアップロード履歴がないかを確認します。対象のアップロード履歴を発見すれば、当該履歴をリラン対象とします。



3.4.6 アップロードサービスのファイル処理

アップロードサービスは、設定に従って監視フォルダを監視し、対象ファイルを発見するとアップロードします。対象ファイル発見後の一連動作は以下のとおりです。

(1) ファイル更新終了確認

Write Watch Seconds（利用者設定値）を経過してもファイルが更新されない（ファイルサイズ、ファイル更新日時が変化しない）ことを確認する。ファイルの更新が確認された場合、当該ファイルは処理対象とはしない。処理対象とされなかったファイルは、次のフォルダ監視で再度対象となる。

(2) ファイルの移動

対象ファイルを 監視フォルダの Uploading サブフォルダ（Uploading/アップロード ID フォルダ）に移動する。移動に失敗した場合、当該ファイルは処理対象とはしない。処理対象とされなかったファイルは、次のフォルダ監視で再度対象となる。

(3) アップロード処理

アップロードを実行する。

(4) 終了処理

アップロードが正常に終了した場合、File Clean Type（利用者設定値）に従い、対象ファイルを処理（削除、またはバックアップ）する。

File Clean Type	対象ファイルの処理
Backup	対象ファイルを監視フォルダの Backup サブフォルダ（Backup/アップロード ID フォルダ）に移動する
	監視フォルダの Uploading サブフォルダ（Uploading/アップロード ID フォルダ）を削除する
Remove	対象ファイルを削除する
	監視ファイルの Uploading サブフォルダ（Uploading/アップロード ID フォルダ）を削除する

3.4.7 アップロード速度の調整

アップロードコマンドの引数、またはアップロードサービスの設定で指定された「使用ネットワークの基準値」をもとに、ピースサイズを決定し、転送状況を確認しながら転送スレッド数を制御します。

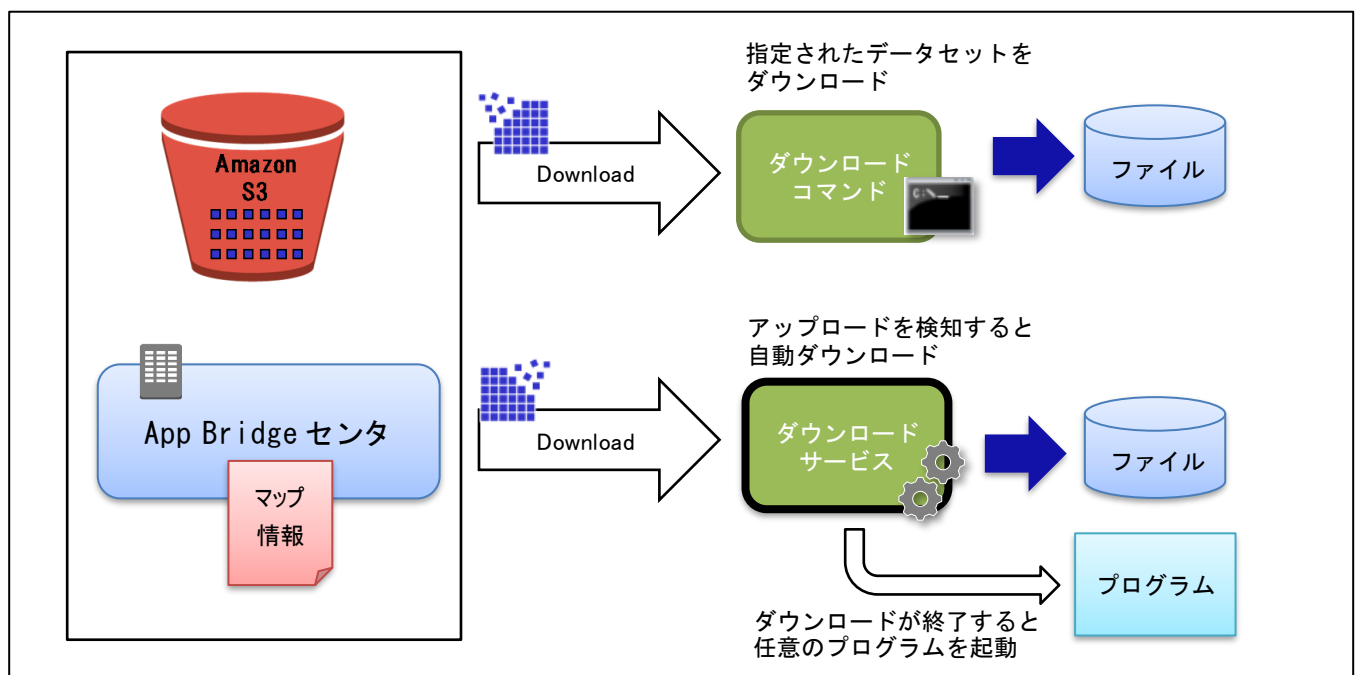
転送速度が「使用ネットワークの基準値」を下回っていた場合は転送スレッドを追加し、「使用ネットワークの基準値」を上回っていた場合は転送スレッドを停止することで、転送速度を調整します。

3.5 ダウンロード

3.5.1 ダウンロードモジュール

本サービスでは、2つのダウンロードモジュールを提供しています。

モジュール	機能	利用場面
ダウンロードコマンド	指定されたデータセット、アップロード履歴のファイルをダウンロードします	必要となった時点でダウンロードする場合を想定しています
ダウンロードサービス	指定されたデータセットを監視し、新たなアップロードを発見すると自動的にダウンロードします。ダウンロード完了後、任意のプログラムを起動することも可能です	当該データセットにアップロードされた全てのファイルを自動的にダウンロードする場合を想定しています



3.5.2 パイプラインダウンロード

パイプラインダウンロードは、ファイル全体のアップロード完了を待たず、最初のピースを発見するとダウンロードを開始する機能です。パイプラインダウンロードを使用することで、ダウンロード完了までの時間を短縮することができます。

パイプラインダウンロードは、ダウンロードサービスのみで提供されます。

3.5.3 ダウンロードモジュールの障害検知

ダウンロードモジュールで障害を検知した場合、イベントログ/アプリケーションに Error ログを記録します。App Bridge Monitor などの監視ツールを使用し、イベントログ/アプリケーションの Error ログ発生を監視することで障害を検知することができます。

また、ダウンロードサービスで、ダウンロード後のコマンド起動を指定している場合、コマンド起動に失敗、またはリターンコードが正常でない場合も同様にイベントログ/アプリケーションの Error ログが記録されます。

3.5.4 ダウンロードのハートビートエラー

ダウンロードモジュールは、ダウンロードを開始すると、一定間隔で進捗状況を App Bridge センタに送信します。App Bridge センタでは、ダウンロードモジュールの進捗情報送信が途切れると、ハートビートエラーを発生させます。発生したハートビートエラーは、App Bridge Monitor を通じて通知されます。通知先や通知方法は App Bridge Monitor で変更することが可能です。

3.5.5 ダウンロードのリラン指示

ダウンロードが失敗した場合、ダウンロード履歴に対し、Web サイトからリランを指示できます。ダウンロードのリランは、前回ダウンロード状態を引き継ぎ、ダウンロード済みピースを再ダウンロードしません。これにより、大容量ファイルのリラン時間を短縮することができます。

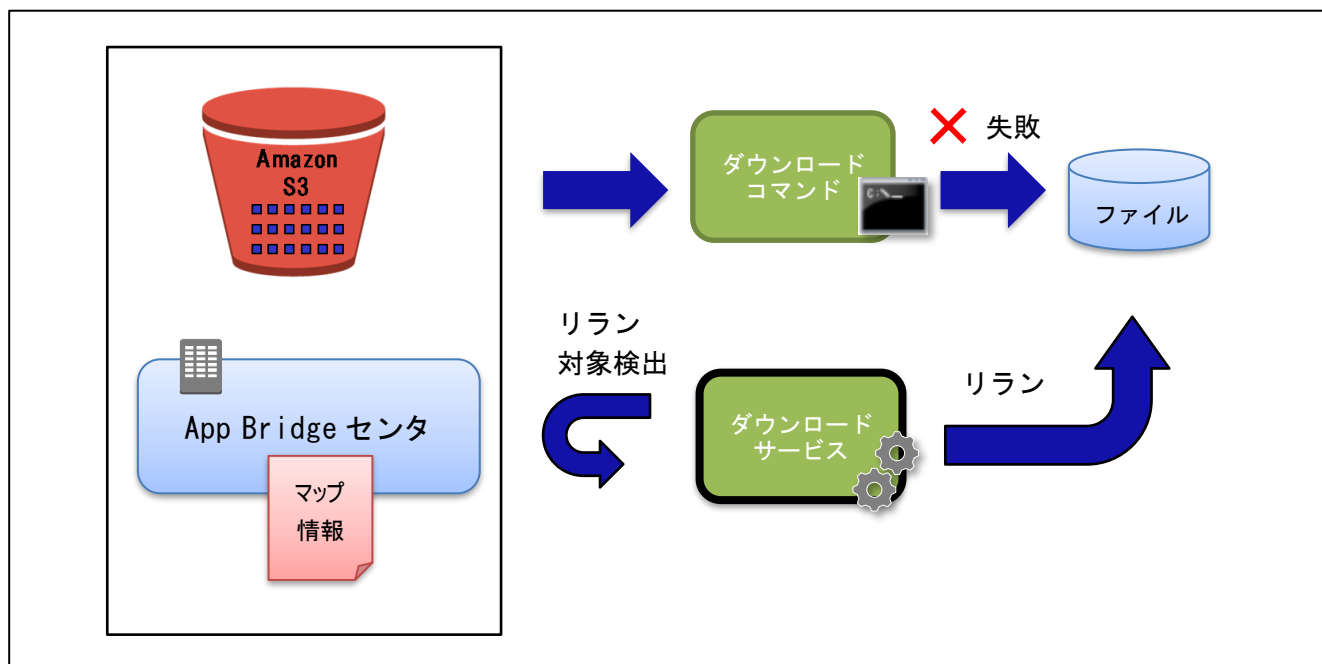
ダウンロードのリランを実施するには、以下の条件を満たす必要があります。

- ダウンロード失敗から 8 時間以上経過していない
- ダウンロード中間ファイルが存在する

3.5.6 ダウンロードのリラン制御

ダウンロードのリランは、ダウンロードサービスが実施します。ダウンロードコマンドが実施したダウンロード履歴に対してリランを指示した場合でも、ダウンロードサービスがリランを実施します。このため、リランを実施するには、ダウンロードが失敗したサーバでダウンロードサービスが稼働している必要があります。

ダウンロードサービスは、定期的に App Bridge センタにアクセスし、同じホスト ID を持つリラン対象のダウンロード履歴がないかを確認します。対象のダウンロード履歴を発見すれば、当該履歴をリラン対象とします。



3.5.7 ダウンロードファイルの処理

ダウンロード中、ダウンロードファイルは、指定されたフォルダに拡張子 .tmp の一意なファイル名を用いて中間ファイルとして作成され、ダウンロード終了時に指定のファイル名にリネームされます。

ダウンロード中に障害が発生した場合、拡張子 .tmp の中間ファイルはそのまま残り、リラン時に使用されます。中間ファイルは、一定期間経過後、ダウンロードサービスによって削除されます。

3.5.8 ダウンロード速度の調整

ダウンロードコマンドの引数、またはダウンロードサービスの設定で指定された「使用ネットワークの基準値」をもとに、ピースサイズを決定し、転送スレッド数を制御します。

ピースサイズは、アップロード時のピースサイズより大きくすることはできません。ピースサイズがアップロード時のピースサイズを下回った場合、ピースを分割してダウンロードを実施します。

実際の転送速度が「使用ネットワークの基準値」を下回っていた場合は転送スレッドを追加し、「使用ネットワークの基準値」を上回っていた場合は転送スレッドを停止することで、転送速度を調整します。

3.5.9 ダウンロードサービスの抽出範囲

ダウンロードサービスは、アップロード終了日時が以下の範囲にあるアップロードをダウンロード対象とします。

- アップロード終了日時 > ダウンロードサービスが当該データセットを監視対象とした時刻
- アップロード終了日時 < 現在時刻 - 30 秒

ダウンロードサービス停止中に終了したアップロードは、次回ダウンロードサービス起動後にダウンロード対象となります。

3.6 暗号化方式

3.6.1 サーバサイド暗号

クラウドストレージ側で準備された暗号化を使用する方式です、暗号キーは本サービスが生成し、暗号化をクラウドストレージ側で実施します。

クラウドストレージ側で暗号化/復号化されるため、アップロードサーバ、ダウンロードサーバの CPU 消費が抑えられます。

サーバサイド暗号化の可否はクラウドストレージによって異なります。現在サポートしている Amazon S3 ではサーバサイド暗号を使用することができ、Amazon S3 で暗号キーは保存されません。

3.6.2 クライアントサイド暗号

本サービスが独自に暗号化を実施する方式です。暗号化後のデータがクラウドストレージに出力されます。暗号化/復号化がアップロードサーバ、ダウンロードサーバで実施されるため、サーバサイド暗号と比較し、CPU が消費されます。

4. データセットの操作

4.1 ファイル転送設定サイトの表示

App Bridge Transporter の各種設定は、ファイル転送設定サイトから実施します。当該サイトを表示するためには、App Bridge Web サイトにログインし、メニューから「App Bridge Transporter/ファイル転送設定」を選択します。



4.2 データセット登録 (Standard)

データセットを登録するには、ファイル転送設定サイトのメニュー「Dataset List」を選択し、[Create] ボタンをクリックします。

Dataset List Upload List Download List Administration

Menu > Dataset List

Search Condition

Dataset CD (Forward match)

Dataset CD	Dataset Name	Allow Upload
------------	--------------	--------------

データセットタイプ選択画面が表示された場合、データセットタイプに Standard を選択し、[Next] ボタンをクリックします。

Dataset List Upload List Download List Administration

Menu > Dataset List > Create Dataset --- Select Dataset Type

Dataset Type

Standard
Standard
Extension

本画面は、Extension が有効化されていないとき、表示されません。

表示された「Dataset Create」画面に、項目を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

Menu > Dataset List > Dataset Create

Dataset CD	
Dataset Name	
Allow Upload	☒
Dataset Type	Standard
Upload Timeout (min.)	15
Upload Timeout Repeat (min.)	30
Download Timeout (min.)	15
Download Timeout Repeat (min.)	30
Allow Other Link Users to Upload	☒
Allow Other Link Users to Download	☒
Data Retention Period (days)	
Maximum Number of Generations	
Allow Pipeline Download	☐

項目	内容
Dataset CD	データセットを一意に表すデータセット CD を指定します (※1)
Dataset Name	データセットの内容を示す名称を指定します (※2)
Allow Upload	アップロードを許可する場合、チェックします
Dataset Type	選択したデータセットタイプが表示されます。本項目はあとで変更できません
Upload Timeout (min.)	アップロードハートビートエラーが発生するまでの無通信期間 (分) で指定します
Upload Timeout Repeat (min.)	アップロードハートビートエラーを繰り返す場合、繰り返し間隔 (分) を指定します
Download Timeout (min.)	ダウンロードハートビートエラーが発生するまでの無通信期間 (分) で指定します
Download Timeout Repeat (min.)	ダウンロードハートビートエラーを繰り返す場合、繰り返し間隔 (分) を指定します
Allow Other Link Users to Upload	ファイルアップロードが許可された全てのユーザに当該データセットへのアップロードを許可する場合、チェックします。詳細は後述の「リンクユーザ設定」を参照下さい
Allow Other Link Users to Download	ファイルアップロードが許可された全てのユーザに当該データセットへのアップロードを許可する場合、チェックします。詳細は後述の「リンクユーザ設定」を参照下さい
Data Retention Period (days)	アップロードされたファイルの保存期間を指定します。保存期間を経過したファイルは削除されます
Maximum Number of Generations	アップロードされたファイルを世代管理する場合、最大世代数を指定します。世代数を超えるファイルがアップロードされた場合、古いファイルから順に削除されます
Allow Pipeline Download	パイプラインダウンロードを許可する場合、チェックします

※1：許可文字数は 1 文字～32 文字、許可文字種：英字、数字、_（アンダースコア）の何れか、英字小文字は英字大文字に変換されます

※2：許可文字数：1 文字～50 文字、許可文字種：サロゲートペア文字以外

4.3 リンクユーザ設定

データセット別にユーザのアクセス権を制御したい場合、リンクユーザを設定します。ユーザの登録権限（ファイルアップロード許可、ファイルダウンロード許可）に従って全データセットを制御する場合は、リンクユーザ設定は不要です。

4.3.1 指定ユーザのみにアクセスを許可する

指定ユーザのみにアップロード、ダウンロードを許可する場合、データセットの「Allow Other Link Users to Upload」、「Allow Other Link Users to Download」をチェックオフとし、リンクユーザ設定で特定ユーザにアクセス権を与えます。

ファイル転送設定画面のメニュー「Dataset List」を選択し、対象のデータセット CD をクリックします。



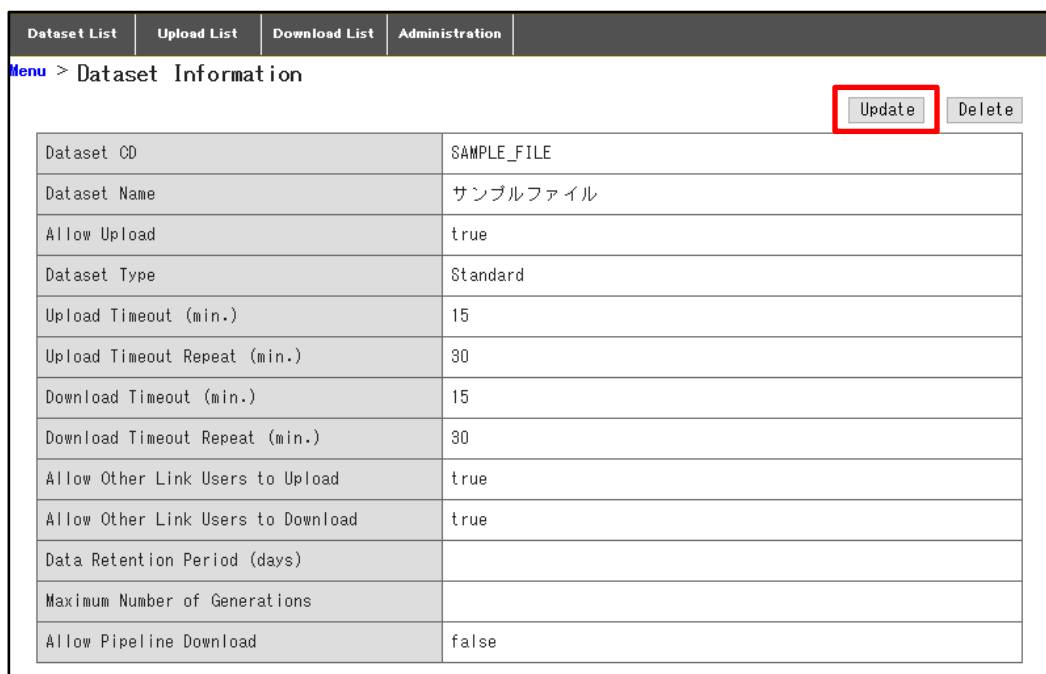
Dataset List | Upload List | Download List | Administration

Menu > Dataset List

Search Condition
Dataset CD (Forward match)

Dataset CD	Dataset Name	Allow Upload
SAMPLE_FILE	サンプルファイル	true

表示されたデータセット情報画面で、[Update]をクリックします。



Dataset List | Upload List | Download List | Administration

Menu > Dataset Information

Dataset CD	SAMPLE_FILE
Dataset Name	サンプルファイル
Allow Upload	true
Dataset Type	Standard
Upload Timeout (min.)	15
Upload Timeout Repeat (min.)	30
Download Timeout (min.)	15
Download Timeout Repeat (min.)	30
Allow Other Link Users to Upload	true
Allow Other Link Users to Download	true
Data Retention Period (days)	
Maximum Number of Generations	
Allow Pipeline Download	false

表示された画面で、「Allow Other Link Users to Upload」、「Allow Other Link Users to Download」のチェックを外し、[OK]ボタンをクリックします。これでリンクユーザに登録されていないユーザは当該データセットにアクセスできなくなります。

Dataset List	Upload List	Download List	Administration
Menu > Dataset Information > Dataset Update			
		OK Cancel	
Dataset CD	SAMPLE_FILE		
Dataset Name	サンプルファイル		
Allow Upload	☒		
Dataset Type	Standard		
Upload Timeout (min.)	15		
Upload Timeout Repeat (min.)	30		
Download Timeout (min.)	15		
Download Timeout Repeat (min.)	30		
Allow Other Link Users to Upload	☐		
Allow Other Link Users to Download	☐		
Data Retention Period (days)			
Maximum Number of Generations			
Allow Pipeline Download	☐		

表示されたデータセット情報画面で、[Add Link User]ボタンをクリックします。

Menu > Dataset Information			
更新が完了しました			
		Update Delete	
Dataset CD	SAMPLE_FILE		
Dataset Name	サンプルファイル		
Allow Upload	true		
Dataset Type	Standard		
Upload Timeout (min.)	15		
Upload Timeout Repeat (min.)	30		
Download Timeout (min.)	15		
Download Timeout Repeat (min.)	30		
Allow Other Link Users to Upload	false		
Allow Other Link Users to Download	false		
Data Retention Period (days)			
Maximum Number of Generations			
Allow Pipeline Download	false		
Link User List			
		Add Link User	
User CD	User Name	Allow Upload	Allow Download

表示された画面で、アップロードを許可したいユーザを選択し、「Allow Upload」をチェックして、[OK] ボタンをクリックします。

Menu > Dataset Information > Add Link User

OK Delete Cancel

User CD/User Name	sampleuser1/サンプルユーザ 1
Allow Upload	☒
Allow Download	☐

続けて同様に、ダウンロードを許可したいユーザを選択し、「Allow Download」をチェックして、[OK] ボタンをクリックします。

Menu > Dataset Information > Add Link User

OK Delete Cancel

User CD/User Name	sampleuser2/サンプルユーザ 2
Allow Upload	☐
Allow Download	☒

この設定により、リンクユーザで許可されたユーザのみが当該データセットにアクセスできます。

Menu > Dataset Information

更新が完了しました Update Delete

Dataset CD	SAMPLE_FILE
Dataset Name	サンプルファイル
Allow Upload	true
Dataset Type	Standard
Upload Timeout (min.)	15
Upload Timeout Repeat (min.)	30
Download Timeout (min.)	15
Download Timeout Repeat (min.)	30
Allow Other Link Users to Upload	false
Allow Other Link Users to Download	false
Data Retention Period (days)	
Maximum Number of Generations	
Allow Pipeline Download	false

Link User List Add Link User

User CD	User Name	Allow Upload	Allow Download
sampleuser1	サンプルユーザ 1	true	false
sampleuser2	サンプルユーザ 2	false	true

4.3.2 指定ユーザのアクセスを拒否する

指定ユーザのアクセス権を拒否したい場合、データセットの「Allow Other Link Users to Upload」、「Allow Other Link Users to Download」をチェックオンとし、リンクユーザ設定で拒否します。

データセットの「Allow Other Link Users to Upload」、「Allow Other Link Users to Download」をチェックオンとし、データセット情報画面で、[Add Link User]ボタンをクリックします。

Menu > Dataset Information

Update Delete

Dataset CD	SAMPLE_FILE
Dataset Name	サンプルファイル
Allow Upload	true
Dataset Type	Standard
Upload Timeout (min.)	15
Upload Timeout Repeat (min.)	30
Download Timeout (min.)	15
Download Timeout Repeat (min.)	30
Allow Other Link Users to Upload	true
Allow Other Link Users to Download	true
Data Retention Period (days)	
Maximum Number of Generations	
Allow Pipeline Download	false

Link User List

Add Link User

User CD	User Name	Allow Upload	Allow Download

アクセスを拒否したいユーザを選択し、「Allow Upload」、「Allow Download」の何れか、または両方のチェックを外します。これにより、当該ユーザは、リンクユーザで設定した権限に従って、アクセスが拒否されます。

Menu > Dataset Information > Add Link User

OK Delete Cancel

User CD/User Name	sampleuser1/サンプルユーザ 1
Allow Upload	☐
Allow Download	☐

4.4 Extensionの有効化

4.4.1 契約タイプの設定

データセットタイプ Extension を有効とするためには、Web サイトに NodeAdmin 以上の権限でログインし、ファイル転送サイトのメニュー「Administration」を選択し、表示された画面の Extension Type をクリックします。

Menu > Administration

Standard -- Usage of this month (2018-10)

Upload Host Count	0
Upload Count	0
Upload Size	0 B (0)
Download Host Count	0
Download Count	0
Download Size	0 B (0)

Extension -- Usage of this month (2018-10)

Upload Host Count	0
Upload Count	0
Upload Size	0 B (0)
Download Host Count	0
Download Count	0
Download Size	0 B (0)

Extension -- Current Order

Extension Type	None
Maximum Upload Host Count	0
Maximum Upload Count	0
Maximum Upload Data Size(GB)	0
Maximum Download Host Count	0
Maximum Download Count	0
Maximum Download Data Size(GB)	0

表示された画面で、任意の契約タイプを選択し、[OK]ボタンをクリックします。Extension の課金は本設定を実施した時点で開始されます。詳細は前述の「Extension の課金」を参照下さい。

Menu > Administration > Update Extension

Extension Type: None (dropdown menu open showing: None, Minimum, Small, Medium, Large)

OK Cancel

4.4.2 ストレージの準備

データセットタイプ Extension を実施する場合、利用者がストレージを準備する必要があります。

Amazon S3 を利用する場合、専用のバケットを作成して下さい。

4.4.3 アクセスキーの登録

データセットを作成する前に、該当ストレージに対して、データの読み取り、追加、変更、削除権限を持つアカウントを準備し、当該アカウントのアクセスキーを登録する必要があります。

Amazon S3 を利用する場合、当該バケットに対するフルアクセス権を持つアカウントのアカウントキーID、シークレットアクセスキーを登録します。

アカウントキーID を登録するためには、App Bridge Web サイトにログインし、メニューから「Credentials/AWS 認証情報管理」を選択し、表示された画面から登録します。



アクセスキーID 登録の詳細は、以下のマニュアルを参照下さい。

- App Bridge 認証管理ガイド

4.5 データセット登録 (Extension)

データセットを登録するには、ファイル転送設定サイトのメニュー「Dataset List」を選択し、[Create] ボタンをクリックします。

Dataset CD	Dataset Name	Allow Upload
SAMPLE_FILE	サンプルファイル	true

表示されたデータセットタイプ選択画面で、データセットタイプに Extension を選択し、[Next] ボタンをクリックします。

Dataset Type: Standard, Standard, Extension

Next

表示されたストレージ選択画面で、ストレージタイプに Amazon S3 を選択し、[Next] ボタンをクリックします。

Storage Type: -, Amazon S3

Next

表示された「Dataset Create」画面に、項目を入力し、[OK]ボタンをクリックします。Storage Type～AWS Credential までの項目は、Extension 専用の項目です。

項目	内容
Dataset CD	データセットを一意に表すデータセット CD を指定します (※1)
Dataset Name	データセットの内容を示す名称を指定します (※2)
Allow Upload	アップロードを許可する場合、チェックします
Dataset Type	選択したデータセットタイプが表示されます。本項目はあとで変更できません
Storage Type	選択したストレージタイプが表示されます。本項目はあとで変更できません
AWS Region	使用するバケットが存在する AWS リージョンを選択します
S3 Bucket Name	使用するバケット名を指定します
S3 Server-Side Encoding	サーバサイド暗号を使用する場合、チェックします。チェックしない場合、クライアント暗号が使用されます
AWS Credential	[Select AWS Credential]ボタンをクリックし、使用するアクセスキーを指定します。使用するアクセスキーは事前の登録が必要です
Upload Timeout (min.)	アップロードハートビートエラーが発生するまでの無通信期間 (分) で指定します
Upload Timeout Repeat (min.)	アップロードハートビートエラーを繰り返す場合、繰り返し間隔 (分) を指定します
Download Timeout (min.)	ダウンロードハートビートエラーが発生するまでの無通信期間 (分) で指定します

Download Timeout Repeat (min.)	ダウンロードハートビートエラーを繰り返す場合、繰り返し間隔（分）を指定します
Allow Other Link Users to Upload	ファイルアップロードが許可された全てのユーザに当該データセットへのアップロードを許可する場合、チェックします。詳細は後述の「リンクユーザ設定」を参照下さい
Allow Other Link Users to Download	ファイルアップロードが許可された全てのユーザに当該データセットへのアップロードを許可する場合、チェックします
Data Retention Period (days)	アップロードされたファイルの保存期間を指定します。保存期間を経過したファイルは削除されます
Maximum Number of Generations	アップロードされたファイルを世代管理する場合、最大世代数を指定します
Allow Pipeline Download	パイプラインダウンロードを許可する場合、チェックします

※1：許可文字数は1文字～32文字、許可文字種：英字、数字、_（アンダースコア）の何れか、英字小文字は英字大文字に変換されます

※2：許可文字数：1文字～50文字、許可文字種：サロゲートペア文字以外

5. アップロードの操作

5.1 アップロードサーバの設定

5.1.1 モジュールインストール

アップロードを実施するためには、対象のサーバにモジュールをインストールする必要があります。

(1) アップロードモジュールのダウンロード

対象のセットアップファイルを以下のサイトからダウンロードし、解凍します。

http://www.app-bridge.com/Setup_Transporter.html

ダウンロードファイル	含まれるセットアップファイル	備考
SetupDTSUpload_v011900.zip	SetupDTSUpload.msi	

(2) 共通モジュールのダウンロード

対象のセットアップファイルを以下のサイトからダウンロードし、解凍します。

http://www.app-bridge.com/Setup_Tools.html

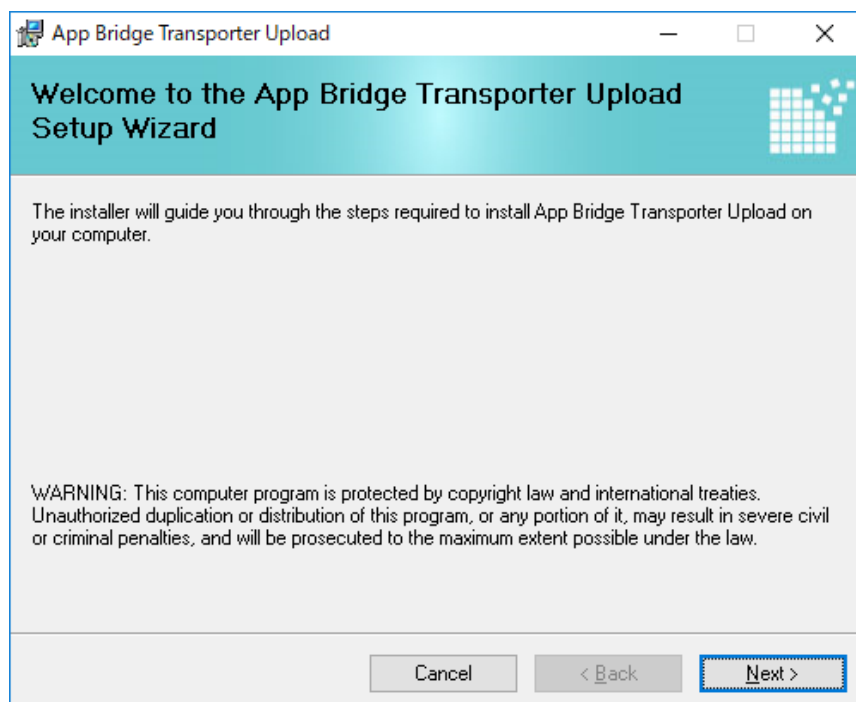
ダウンロードファイル	含まれるセットアップファイル	備考
SetupABMAPIConfig_v011900.zip	SetupABMAPIConfig.msi	※1
SetupABMSupport_v011900.zip	SetupABMSupport.msi	※1、※2

※1：同セットアップが既にインストールされているとき、不要です

※2：App Bridge Monitor Windows Agent がインストールされているとき、不要です

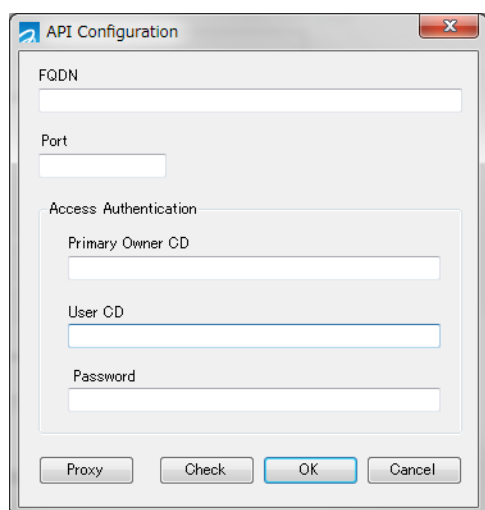
(3) インストール

解凍したセットアップを実行し、示されたウィザードに従って、インストールを実施します。



5.1.2 ユーザアカウント設定

サーバのメニューから、[スタート]→[App Bridge API]→[API Configuration]を選択し、表示された画面でアップロードモジュールがアクセスに使用するユーザアカウント情報を設定します。

The image shows a Windows-style dialog box titled "API Configuration". It contains several input fields: "FQDN" at the top, "Port" below it, and a section titled "Access Authentication" which includes "Primary Owner CD", "User CD", and "Password" fields. At the bottom of the dialog are four buttons: "Proxy", "Check", "OK", and "Cancel". The "OK" button is highlighted with a blue border.

#	項目	内容	備考
1	FQDN	App Bridge センタにアクセスするためのFQDN	mercury-api. app-bridge. com を指定下さい
2	Port	App Bridge センタにアクセスするためのポート番号	443 を指定下さい
3	Primary Owner CD	ユーザが所属するオーナーコード	課金オーナー CD を指定します
4	User CD	アクセスに使用するユーザコード	
5	Password	ユーザのパスワード	
6	Proxy	プロキシサーバを経由する場合、本ボタンをクリックしプロキシ情報を設定します。	※1
7	Check	App Bridge センタと通信し、通信状態を確認します	

※1：プロキシ設定の詳細は、App Bridge Windows Agent プロキシ設定ガイドを参照下さい

サーバに設定できるユーザアカウントは1つです。同じサーバでアップロードとダウンロードの両方を実施する場合、設定するアカウントにはアップロード、ダウンロード、両方の権限が必要です。

5.1.3 コマンドのパス確認と環境変数設定

アップロードコマンドは、インストールフォルダの CLI サブフォルダに格納されている DTSUploadCmd です。

ローカルディスク (C:) > Program Files (x86) > App Bridge Transporter Upload > CLI			
名前	更新日時	種類	サイズ
DTSUploadCmd.exe	2018/10/10 15:21	アプリケーション	

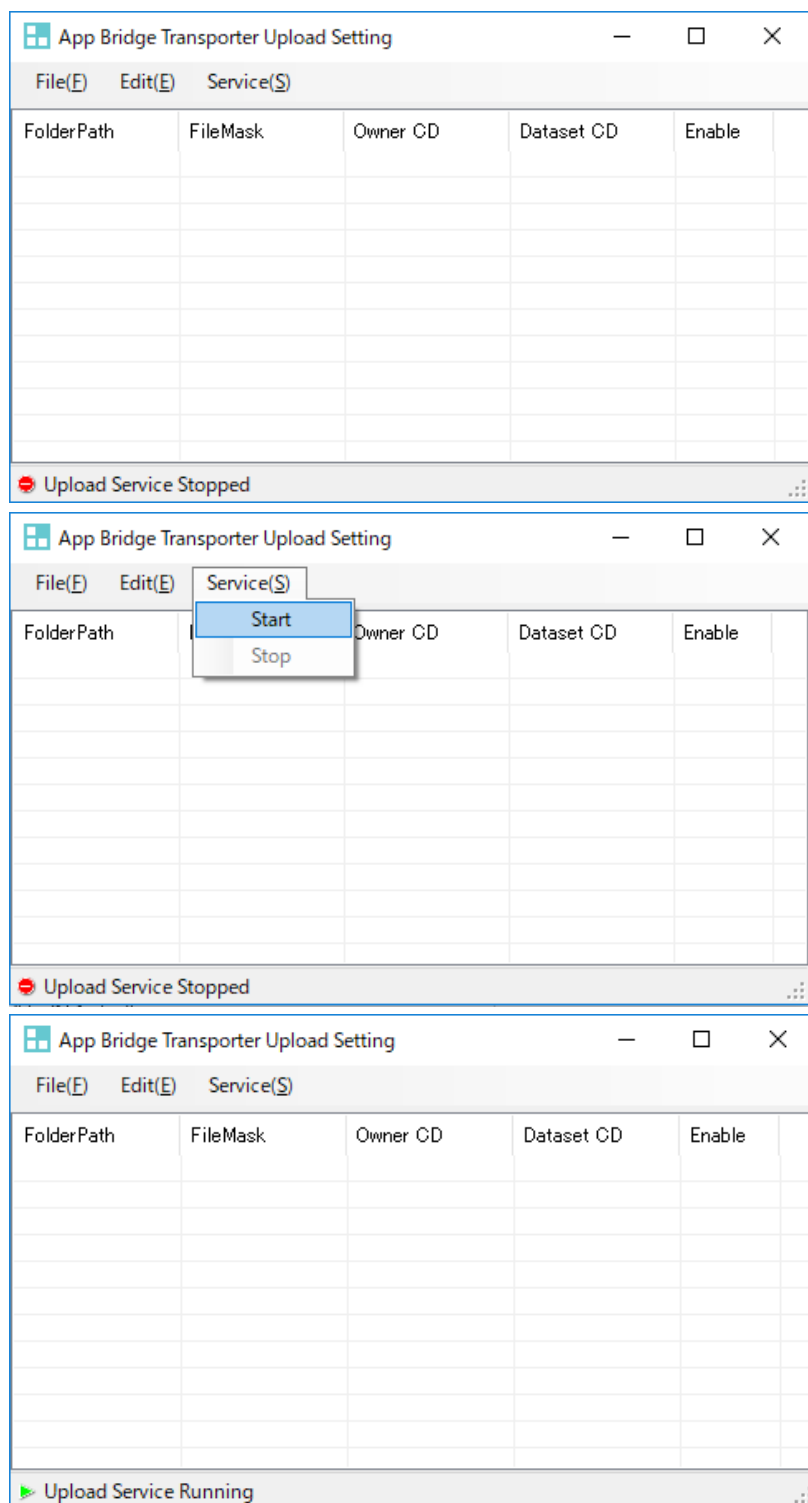
サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Upload]→[User Environment Variable [PATH]→[Enter CLI Folder]を選択すると、CLI フォルダをユーザレベルの環境変数 PATH の末尾に登録します。必要に応じて実行下さい。

```
C:\> C:\Program Files (x86)\App Bridge Transporter Upload\SetPath2User.exe
*** Set User Environment Path ***
Register the following folders to User Environment PATH
C:\Program Files (x86)\App Bridge Transporter Upload\CLI
Go? [Y/N]
y
Complete!
Please Enter Any Key...
```

5.1.4 サービスの起動

インストール直後、アップロードサービスは停止しているため、これを起動します。

サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Upload]→[Upload Setting]を選択し、Upload Setting フォームを起動します。起動した UploadSetting フォームのメニューから[Service]→[Start]を選択し、アップロードサービスを起動します。サービスの起動状態は、Upload Setting フォーム画面下部のステータスストリップに表示されます。

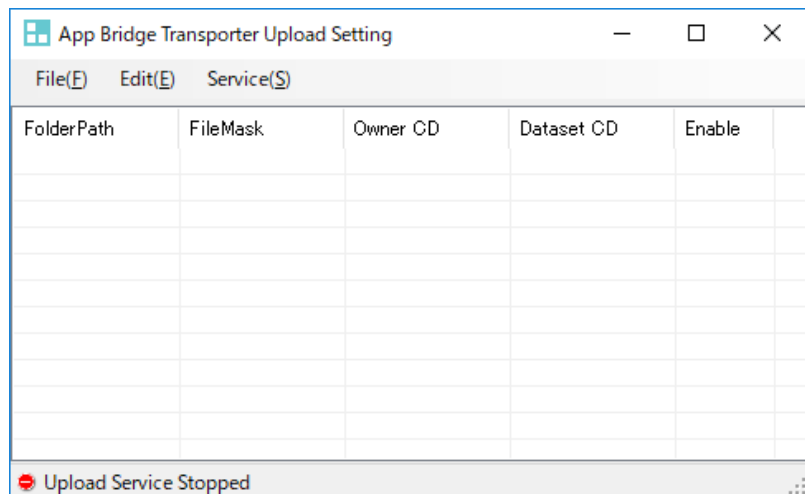


コマンドでのアップロードについても、リラン処理、不要ファイル削除をアップロードサービスが実施します。アップロードサービスは必ず起動して下さい。

5.1.5 モジュールのアンインストール

(1) サービス停止

サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Upload]→[Upload Setting]を選択し、Upload Setting フォームを起動します。起動した UploadSetting フォームのメニューから[Service]→[Stop]を選択し、アップロードサービスを停止します。



(2) 環境変数 PATH からの削除

CLI フォルダをユーザレベルの環境変数 PATH に登録している場合、サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Upload]→[User Environment Variable [PATH]]→[Remove CLI Folder]を選択し、ユーザレベルの環境変数 PATH から CLI フォルダを削除します。

(3) アンインストール

「コントロールパネル」－「プログラムと機能」で「App Bridge Transporter Upload」を選択し、アンインストールします。

5.1.6 モジュールのアップグレード

アップロードモジュールをアップグレードする場合、アンインストールを実行したのち、再度新しいバージョンのインストールを実行してください。設定情報は引き継がれます。

ダウングレード（古いバージョンのインストール）は保証していません。

5.2 アップロードコマンド

指定されたファイルを、指定されたデータセットにアップロードします。

5.2.1 コマンド様式

```
DTSUploadCmd      [/oc ownercd]
                   /dc datasetcd
                   /if inputfilepath
                   [/nb networkbandwidth]
                   [/we (true|false)]
                   [/ta (true|false)]
                   [/q (true|false)]
```

引数	内容	仮定値																										
/oc	オーナー CD を指定する	課金オーナー CD																										
/dc	データセット CD を指定する	必須																										
/if	入力ファイルパスを指定する。以下の代替文字列が使用可能 <table><tr><th>代替文字列</th><th>内容</th></tr><tr><td>%DATE-YYYY%</td><td>当日 (UTC) の年 (4 桁)</td></tr><tr><td>%DATE-MM%</td><td>当日 (UTC) の月 (2 桁)</td></tr><tr><td>%DATE-DD%</td><td>当日 (UTC) の日 (2 桁)</td></tr><tr><td>%DATE-XXX-YYYY%</td><td>当日 (UTC) から XXX シフトした年</td></tr><tr><td>%DATE-XXX-MM%</td><td>当日 (UTC) から XXX シフトした月</td></tr><tr><td>%DATE-XXX-DD%</td><td>当日 (UTC) から XXX シフトした日</td></tr><tr><td>%LDATE-YYYY%</td><td>当日 (ローカル) の年 (4 桁)</td></tr><tr><td>%LDATE-MM%</td><td>当日 (ローカル) の月 (2 桁)</td></tr><tr><td>%LDATE-DD%</td><td>当日 (ローカル) の日 (2 桁)</td></tr><tr><td>%LDATE-XXX-YYYY%</td><td>当日 (ローカル) から XXX シフトした年</td></tr><tr><td>%LDATE-XXX-MM%</td><td>当日 (ローカル) から XXX シフトした月</td></tr><tr><td>%LDATE-XXX-DD%</td><td>当日 (ローカル) から XXX シフトした日</td></tr></table>	代替文字列	内容	%DATE-YYYY%	当日 (UTC) の年 (4 桁)	%DATE-MM%	当日 (UTC) の月 (2 桁)	%DATE-DD%	当日 (UTC) の日 (2 桁)	%DATE-XXX-YYYY%	当日 (UTC) から XXX シフトした年	%DATE-XXX-MM%	当日 (UTC) から XXX シフトした月	%DATE-XXX-DD%	当日 (UTC) から XXX シフトした日	%LDATE-YYYY%	当日 (ローカル) の年 (4 桁)	%LDATE-MM%	当日 (ローカル) の月 (2 桁)	%LDATE-DD%	当日 (ローカル) の日 (2 桁)	%LDATE-XXX-YYYY%	当日 (ローカル) から XXX シフトした年	%LDATE-XXX-MM%	当日 (ローカル) から XXX シフトした月	%LDATE-XXX-DD%	当日 (ローカル) から XXX シフトした日	必須 XXX は以下のとおり D01～D10 : 01～10 日前 M01～M12 : 01～12 か月前
代替文字列	内容																											
%DATE-YYYY%	当日 (UTC) の年 (4 桁)																											
%DATE-MM%	当日 (UTC) の月 (2 桁)																											
%DATE-DD%	当日 (UTC) の日 (2 桁)																											
%DATE-XXX-YYYY%	当日 (UTC) から XXX シフトした年																											
%DATE-XXX-MM%	当日 (UTC) から XXX シフトした月																											
%DATE-XXX-DD%	当日 (UTC) から XXX シフトした日																											
%LDATE-YYYY%	当日 (ローカル) の年 (4 桁)																											
%LDATE-MM%	当日 (ローカル) の月 (2 桁)																											
%LDATE-DD%	当日 (ローカル) の日 (2 桁)																											
%LDATE-XXX-YYYY%	当日 (ローカル) から XXX シフトした年																											
%LDATE-XXX-MM%	当日 (ローカル) から XXX シフトした月																											
%LDATE-XXX-DD%	当日 (ローカル) から XXX シフトした日																											
/nb	使用するネットワーク帯域の基準値 (Mbps) を 8～1024 の 8 の倍数で指定する	128 (Mbps)																										
/we	エラーをイベントログに出力する場合 True を指定する	True																										
/ta	S3 Transfer Acceleration を使用する場合 True を指定する。 Standard のデータセットでは True を指定できない	False																										
/q	Quiet モード (応答確認なし) を使用する	False																										

5.2.2 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常終了	
8	引数エラーが発生した	
12	予期せぬエラーが発生した	

5.3 アップロードサービス

5.3.1 監視フォルダの登録

監視対象のフォルダを登録するには、サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Upload]→[Upload Setting]を選択し、Upload Setting フォームを起動します。起動した UploadSetting フォームのメニューから[Edit]→[Add Object]を選択し、表示された画面に従ってアップロード情報を指定し、[OK]ボタンをクリックします。

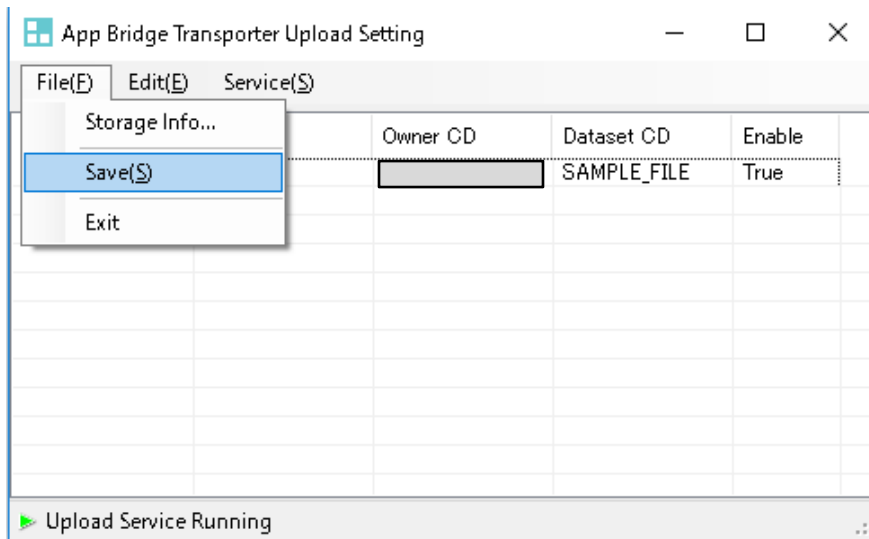
The screenshot shows the 'App Bridge Transporter Upload Setting' window. The 'Edit(E)' menu is open, and the 'Add Object...' option is selected. The 'Watch File' section contains the following fields: 'Folder Path' with a 'Ref...' button, 'File Mask' set to '**', 'Write Watch Seconds' set to '90', and 'File Clean Type' set to 'Backup'. The 'Dataset Information' section contains: 'Owner CD', 'Dataset CD', 'Dataset Name', and 'Dataset Type'. The 'Performance' section contains: 'Network Bandwidth Average Level' set to '128 Mbps' and a 'Transfer Acceleration' checkbox. The 'Enable' checkbox is checked, and the 'OK' button is highlighted.

項目	内容
Folder Path	監視するフォルダパスを指定する
File Mask	対象のファイルマスクを指定する
Write Watch Seconds	ファイルの出力待ち時間を指定する（※1）
File Clean Type	Backup、または Remove を選択する（※1）
Owner CD	アップロードするオーナー CD を指定する
Dataset CD	アップロードするデータセット CD を指定する
Network Bandwidth Average Level	使用するネットワーク帯域の基準値（Mbps）を 8～1024 の 8 の倍数で指定する
Transfer Acceleration	S3 Transfer Acceleration を使用する場合チェックする。 Standard のデータセットではチェックできない
Enable	このフォルダ監視を有効とする場合チェックする

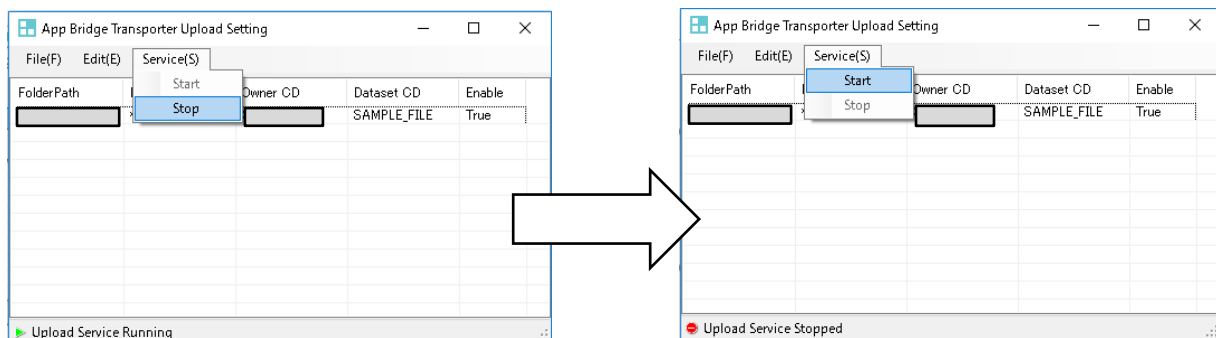
※1：詳細は前述の「アップロードサービスのファイル処理」を参照下さい

5.3.2 設定の保存と反映

UploadSetting フォームのメニューから [File]→[Save] を選択し、更新内容を保存します。



UploadSetting フォームのメニューから [Service]→[Stop]、[Service]→[Start] を実行し、アップロードサービスを再起動します。これにより、更新された内容をアップロードサービスが認識し、フォルダの監視が開始されます。

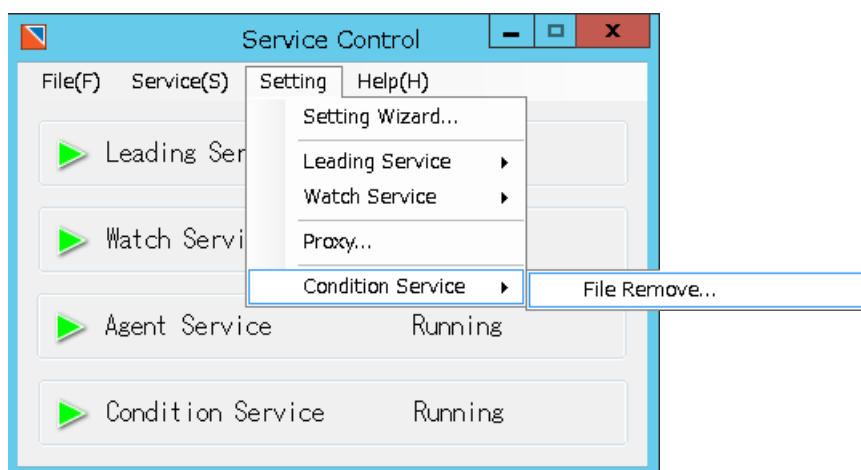


5.3.3 Backup フォルダのファイル削除

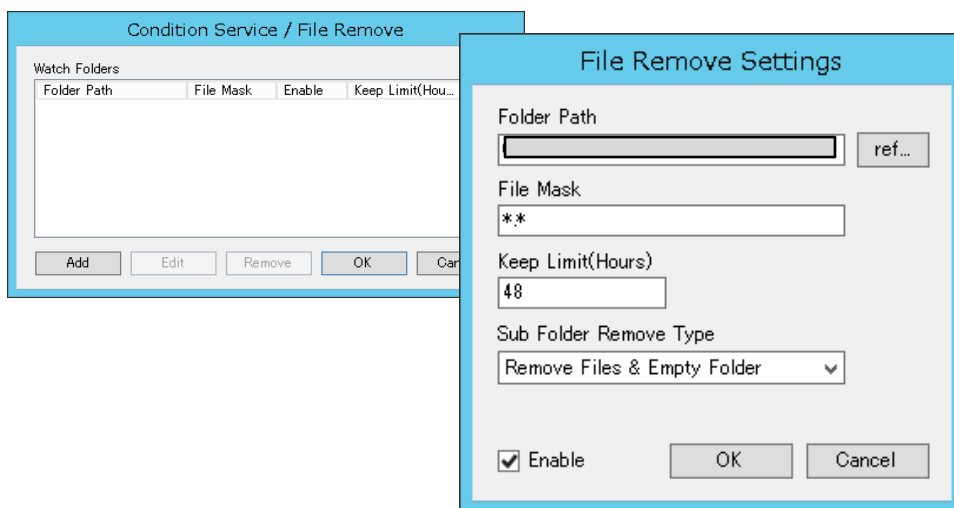
アップロードサービスが監視フォルダに作成した Backup フォルダのアップロード済みファイルは、そのまま保存され続けます。任意のタイミングでクリーンアップを実施して下さい。

同じサーバに App Bridge Monitor Windows Agent を導入いただいている場合、Agent のファイル削除機能で、一定期間が経過した Backup フォルダのアップロード済みファイルを削除することができます。

App Bridge Monitor Windows Agent でバックアップフォルダのアップロード済みファイルを削除するには、サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Monitor]→[Service Control]を選択し、Service Control フォームを起動します。Service Control のメニューで[Setting]→[Condition Service]→[File Remove]を選択します。



表示された File Remove 画面で、[Add]ボタンをクリックし、表示された File Remove Settings 画面で内容を設定します。

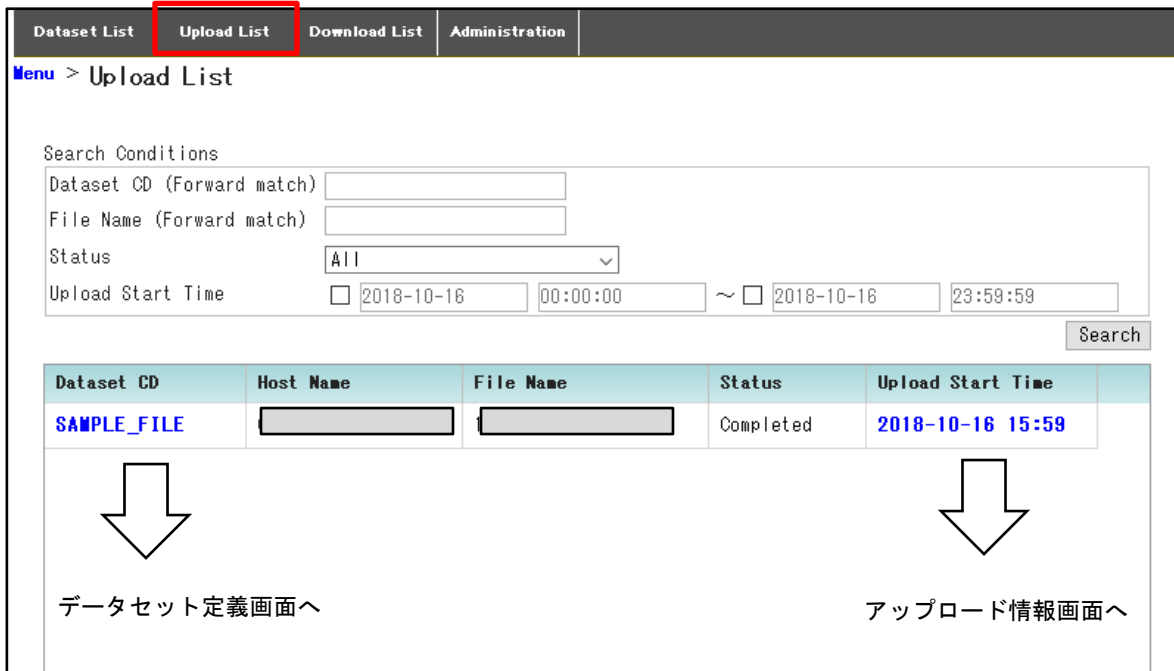


項目	内容
Folder Path	監視フォルダの Backup フォルダを指定する
File Mask	*.*を指定する
Keep Limit	任意の保存期間を指定する
Sub Folder Remove Type	[Remove Files & Empty Folder]を選択する。これにより Backup フォルダに作成されたサブフォルダ（アップロード ID）も削除される

5.4 アップロード履歴

アップロードが開始されると、アップロード履歴が作成されます。アップロード履歴を確認するには、ファイル転送設定サイトのメニュー「Upload List」を選択します。

表示されたアップロード履歴の Dataset CD をクリックするとデータセット定義が、Upload Start Time をクリックするとアップロード情報が表示されます。



Dataset List **Upload List** Download List Administration

Menu > Upload List

Search Conditions

Dataset CD (Forward match)

File Name (Forward match)

Status

Upload Start Time ☐ 2018-10-16 00:00:00 ~ ☐ 2018-10-16 23:59:59

Dataset CD	Host Name	File Name	Status	Upload Start Time
SAMPLE_FILE			Completed	2018-10-16 15:59

↓

データセット定義画面へ

↓

アップロード情報画面へ

表示されるステータスを以下に示します。

ステータス	状態	備考
Uploading	アップロード中	
Complete	アップロード完了	
Abort	アップロード異常終了	
Canceling	キャンセル要求中	利用者トリガー、Agent 処理待ち
Canceled	キャンセル完了	
WaitingRetry	リトライ要求中	利用者トリガー、Agent 処理待ち

5.5 アップロード情報

アップロード情報画面には、アップロード関連の各種情報が表示されます。

Dataset List	Upload List	Download List	Administration
Menu > Upload Information			
Dataset Information			
Dataset CD	SAMPLE_FILE		
Dataset Name	サンプルファイル		
Dataset Type	Standard		
Disable Download Refresh			
☒ Delete Immediately ☐ Specify Delete Time 2018-10-19 00:00:00 Delete Data			
File Information			
Host Name			
File Name			
File Size	1.00 GB (1,073,741,824)		
Upload Length	1.00 GB (1,073,741,824)		
File Create Time	2018-10-16 15:57:36		
File Update Time	2018-10-16 15:57:39		
Upload Information			
Upload Agent	Windows Service		
Upload User Name	サンプルユーザ1		
Upload ID	5262CFB409EC42B79AD62B2BD48A1876		
Upload Status	Completed		
Upload Start Time	2018-10-16 15:59:23		
Upload End Time	2018-10-16 16:00:39		
Allow Download	true		

Web サイトにログインしたユーザが、当該データセットに対するアップロード権限を持つとき、以下の操作が可能です。各種ボタンは実行可能な場合に表示されます。

ボタン	内容	備考
Cancel Upload	ダウンロード実行中の Agent に中止を要求する。ステータスは Canceling となり、Agent が処理を中止すると Canceled となる	
Force Cancel	ステータスを Canceling から Canceled に強制変更する	Agent ダウン時に使用
Retry Upload	Agent にアップロードの再開を要求する。ステータスは WaitingRetry となり、Agent が処理を開始すると Uploading となる	
Disable Download	Complete しているアップロードのダウンロードを抑止する	
Allow Download	抑止されているダウンロードを許可する	
Delete Data	クラウドストレージ上のデータを削除する。 「Specify Delete Time」が選択された場合、指定時刻に削除される	
Cancel Delete	指定されている削除予定を解除する	

6. ダウンロードの操作

6.1 ダウンロードサーバの設定

6.1.1 モジュールインストール

ダウンロードを実施するためには、対象のサーバにモジュールをインストールする必要があります。

(1) ダウンロードモジュールのダウンロード

対象のセットアップファイルを以下のサイトからダウンロードし、解凍します。

http://www.app-bridge.com/Setup_Transporter.html

ダウンロードファイル	含まれるセットアップファイル	備考
SetupDTSDownload_v011900.zip	SetupDTSDownload.msi	

(2) 共通モジュールのダウンロード

対象のセットアップファイルを以下のサイトからダウンロードし、解凍します。

http://www.app-bridge.com/Setup_Tools.html

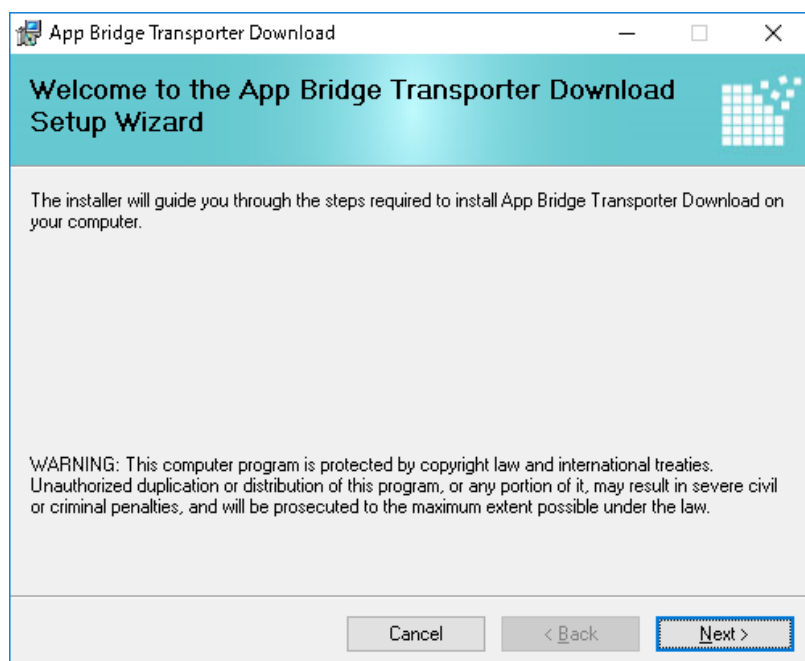
ダウンロードファイル	含まれるセットアップファイル	備考
SetupABMAPIConfig_v011900.zip	SetupABMAPIConfig.msi	※1
SetupABMSupport_v011900.zip	SetupABMSupport.msi	※1、※2

※1：同セットアップが既にインストールされているとき、不要です

※2：App Bridge Monitor Windows Agent がインストールされているとき、不要です

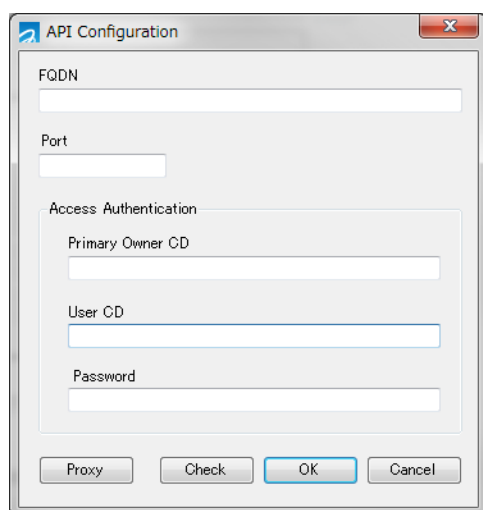
(3) インストール

解凍したセットアップを実行し、示されたウィザードに従って、インストールを実施します。



6.1.2 ユーザアカウント設定

サーバのメニューから、[スタート]→[App Bridge API]→[API Configuration]を選択し、表示された画面でアップロードモジュールがアクセスに使用するユーザアカウント情報を設定します。

The image shows a Windows-style dialog box titled "API Configuration". It contains several input fields: "FQDN" at the top, "Port" below it, and a section titled "Access Authentication" which includes "Primary Owner CD", "User CD", and "Password" fields. At the bottom of the dialog are four buttons: "Proxy", "Check", "OK", and "Cancel". The "OK" button is highlighted with a blue border.

#	項目	内容	備考
1	FQDN	App Bridge センタにアクセスするためのFQDN	mercury-api. app-bridge. com を指定下さい
2	Port	App Bridge センタにアクセスするためのポート番号	443 を指定下さい
3	Primary Owner CD	ユーザが所属するオーナーコード	課金オーナー CD を指定します
4	User CD	アクセスに使用するユーザコード	
5	Password	ユーザのパスワード	
6	Proxy	プロキシサーバを経由する場合、本ボタンをクリックしプロキシ情報を設定します	※1
7	Check	App Bridge センタと通信し、通信状態を確認します	

※1：プロキシ設定の詳細は、App Bridge Windows Agent プロキシ設定ガイドを参照下さい

サーバに設定できるユーザアカウントは1つです。同じサーバでアップロードとダウンロードの両方を実施する場合、設定するアカウントにはアップロード、ダウンロード、両方の権限が必要です。

6.1.3 コマンドのパス確認と環境変数設定

ダウンロードコマンドは、インストールフォルダの CLI サブフォルダに格納されている DTSDownloadCmd です。

ローカル ディスク (C:) > Program Files (x86) > App Bridge Transporter Download > CLI			
名前	更新日時	種類	サイズ
DTSDownloadCmd.exe	2018/10/16 8:26	アプリケーション	

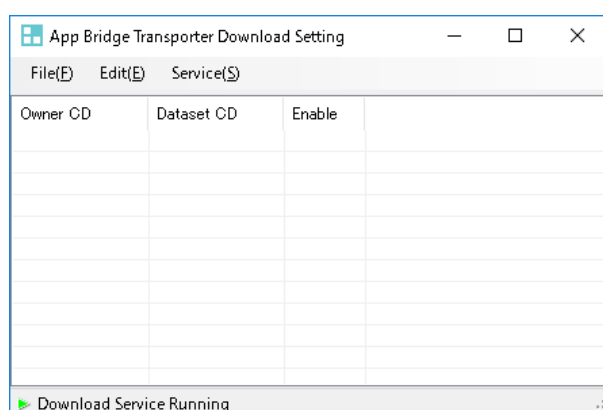
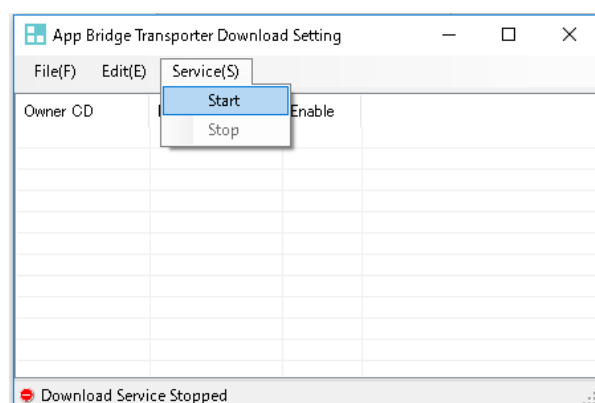
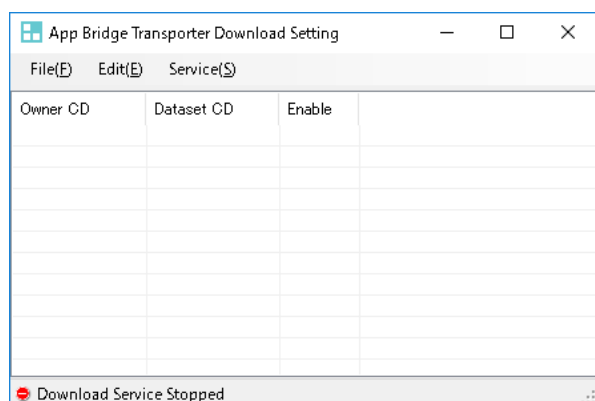
サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Download]→[User Environment Variable [PATH]→[Enter CLI Folder]を選択すると、CLI フォルダをユーザレベルの環境変数 PATH の末尾に登録します。必要に応じて実行下さい。

```
C:\> C:\Program Files (x86)\App Bridge Transporter Download\SetPath2User.exe
*** Set User Environment Path ***
Register the following folders to User Environment PATH
C:\Program Files (x86)\App Bridge Transporter Download\CLI
Go? [Y/N]
y
Complete!
Please Enter Any Key...
```


6.1.4 サービスの起動

インストール直後、ダウンロードサービスは停止しているため、これを起動します。

サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Download]→[Download Setting]を選択し、Download Setting フォームを起動します。起動した DownloadSetting フォームのメニューから[Service]→[Start]を選択し、ダウンロードサービスを起動します。サービスの起動状態は、Download Setting フォーム画面下部のステータスストリップに表示されます。

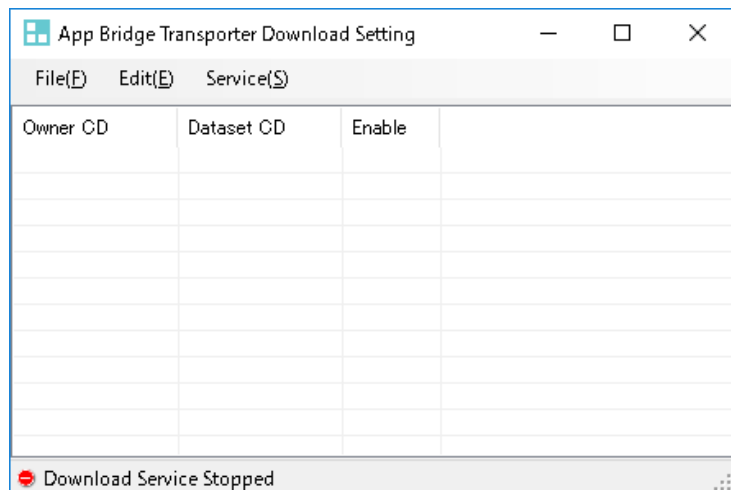


コマンドでのダウンロードについても、リラン処理、不要ファイル削除をダウンロードサービスが実施します。ダウンロードサービスは必ず起動して下さい。

6.1.5 モジュールのアンインストール

(1) サービス停止

サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Download]→[Download Setting]を選択し、Download Setting フォームを起動します。起動した UploadSetting フォームのメニューから[Service]→[Stop]を選択し、アップロードサービスを停止します。



(2) 環境変数 PATH からの削除

CLI フォルダをユーザレベルの環境変数 PATH に登録している場合、サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Download]→[User Environment Variable [PATH]→[Remove CLI Folder]を選択し、ユーザレベルの環境変数 PATH から CLI フォルダを削除します。

(3) アンインストール

「コントロールパネル」－「プログラムと機能」で「App Bridge Transporter Download」を選択し、アンインストールします。

6.1.6 モジュールのアップグレード

ダウンロードモジュールをアップグレードする場合、アンインストールを実行したのち、再度新しいバージョンのインストールを実行してください。設定情報は引き継がれます。

ダウングレード（古いバージョンのインストール）は保証していません。

6.2 ダウンロードコマンド

指定されたデータセットからダウンロードします。

6.2.1 コマンド様式

```
DTSDownloadCmd    [/oc ownercd]
                   /dc datasetcd
                   [/uid uploadid]
                   /of outputfilepath
                   [/nb networkbandwidth]
                   [/we (true|false)]
                   [/ta (true|false)]
                   [/q (true|false)]
```

引数	内容	仮定値
/oc	オーナー CD を指定する	課金オーナー CD
/dc	データセット CD を指定する	必須
/uid	アップロード ID を指定する	※1
/of	出力ファイルパスを指定する。後述の代替文字列が使用できる	必須
/nb	使用するネットワーク帯域の基準値 (Mbps) を 8~1024 の 8 の倍数で指定する	128 (Mbps)
/we	エラーをイベントログに出力する	True
/ta	S3 Transfer Acceleration を使用する場合 True DatasetType : Standard のデータセットでは指定できない	False
/q	Quiet モード (応答確認なし) を使用する	False

※1 : 指定されたデータセットのアップロード履歴のうち、Status が Complete で最も大きなアップロード終了日時を持つアップロード ID を仮定する

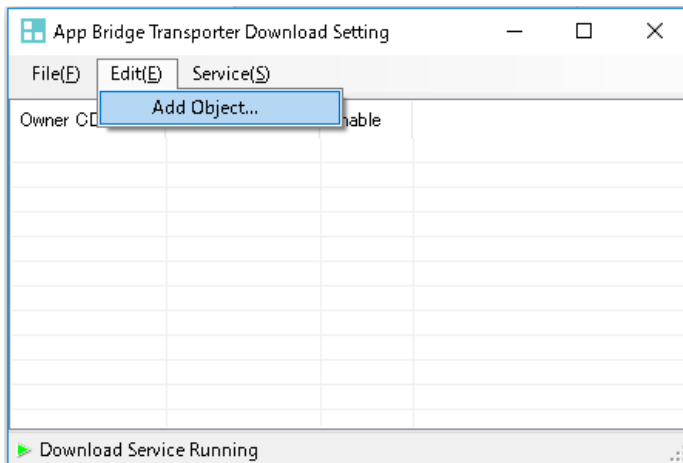
6.2.2 リターンコード

リターンコード	内容	備考
0	正常終了	
8	引数エラーが発生した	
12	予期せぬエラーが発生した	

6.3 ダウンロードサービス

6.3.1 監視データセットの登録

監視対象のデータセットを登録するには、サーバのメニューから[スタート]→[App Bridge Transporter Download]→[Download Setting]を選択し、Download Setting フォームを起動します。起動した DownloadSetting フォームのメニューから[Edit]→[Add Object]を選択し、表示された画面に従ってダウンロード情報を指定し、[OK]ボタンをクリックします。



表示された画面に監視対象のオーナーとデータセットを指定します。

The screenshot shows a dialog box titled 'New Dataset'. It has two text input fields: 'Owner CD' and 'Dataset CD'. At the bottom are 'OK' and 'Cancel' buttons.

表示された画面の Output File タブ、Performance タブ、Command タブに出力ファイルの情報を指定し、[OK] ボタンをクリックします。

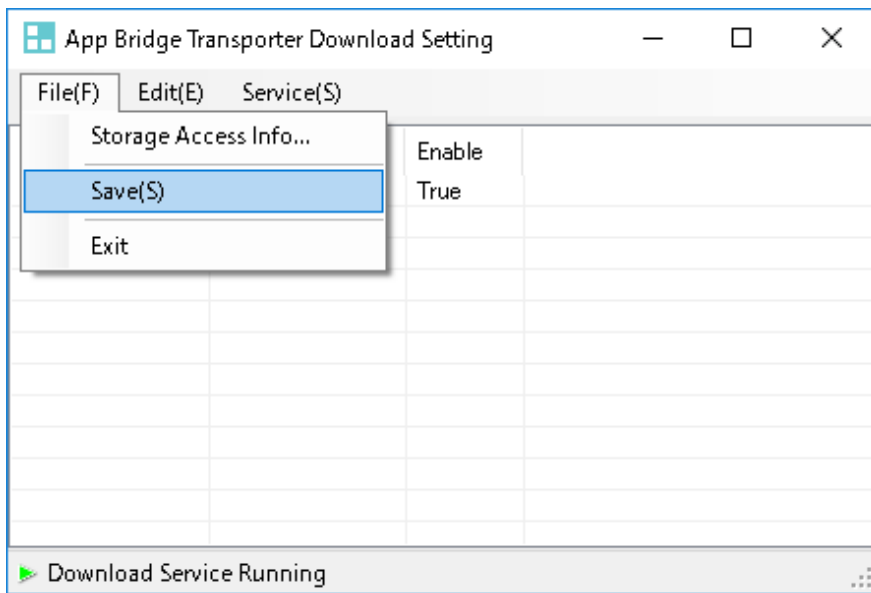
タブ	項目	内容
Output File	Folder Path	出力ファイルのフォルダパスを指定する（※1）
	File Name	出力ファイルのファイル名を指定する（※1）
	Rewrite	出力ファイルを上書き保存する場合チェックする
Performance	Network Bandwidth Average Level	使用するネットワーク帯域の基準値（Mbps）を 8～1024 の 8 の倍数で指定する
	Transfer Acceleration	S3 Transfer Acceleration を使用する場合チェックする。Standard のデータセットではチェックできない
Command	Use Command	ダウンロード後にコマンドを起動する場合チェックする（※2）
	Command Path	起動するコマンドのパスを指定する
	Command Arguments	コマンドに渡す引数を指定する（※1）
	Working Directory Path	コマンドのワーキングフォルダパスを指定する。指定されない場合、起動コマンドが存在するフォルダを仮定する
	Accept Return Codes	正常と見なすリターンコードを CSV 形式で指定する
Enable		このデータセット監視を有効とする場合チェックする

※1：後述の代替文字列が使用できる

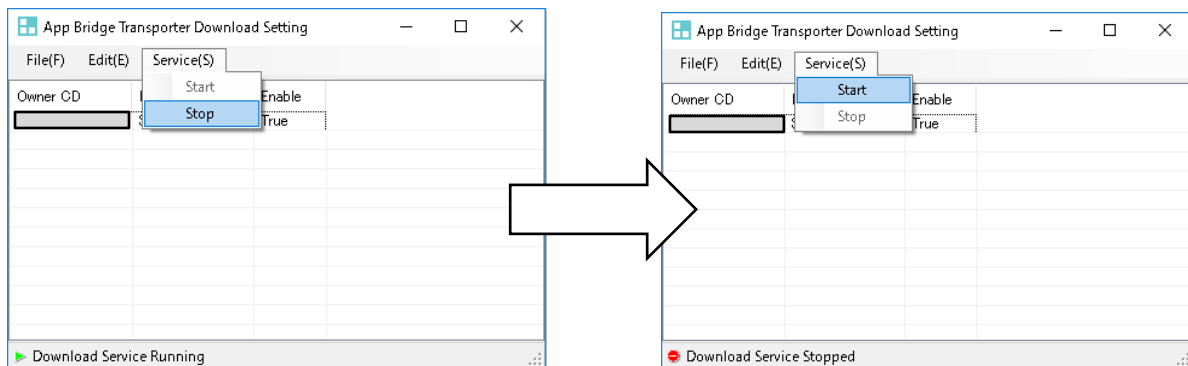
※2：コマンドの起動に失敗した場合、またはリターンコードが正常でなかった場合、イベントログにエラーが記録される

6.3.2 設定の保存と反映

DownloadSetting フォームのメニューから [File]→[Save] を選択し、更新内容を保存します。



DownloadSetting フォームのメニューから [Service]→[Stop]、[Service]→[Start] を実行し、ダウンロードサービスを再起動します。これにより、更新された内容をダウンロードサービスが認識し、データセットの監視が開始されます。



6.4 代替文字列

使用できる代替え文字列は以下のとおりです。

代替文字列	内容	備考
%UPLOADFILENAME%	アップロード時のファイル名	
%DATE-YYYY%	当日 (UTC) の年 (4 桁)	
%DATE-MM%	当日 (UTC) の月 (2 桁)	
%DATE-DD%	当日 (UTC) の日 (2 桁)	
%DATE-XXX-YYYY%	当日 (UTC) から XXX シフトした年	※1
%DATE-XXX-MM%	当日 (UTC) から XXX シフトした月	※1
%DATE-XXX-DD%	当日 (UTC) から XXX シフトした日	※1
%LDATE-YYYY%	当日 (ローカル) の年 (4 桁)	
%LDATE-MM%	当日 (ローカル) の月 (2 桁)	
%LDATE-DD%	当日 (ローカル) の日 (2 桁)	
%LDATE-XXX-YYYY%	当日 (ローカル) から XXX シフトした年	※1
%LDATE-XXX-MM%	当日 (ローカル) から XXX シフトした月	※1
%LDATE-XXX-DD%	当日 (ローカル) から XXX シフトした日	※1

※1 : XXX は以下のとおり

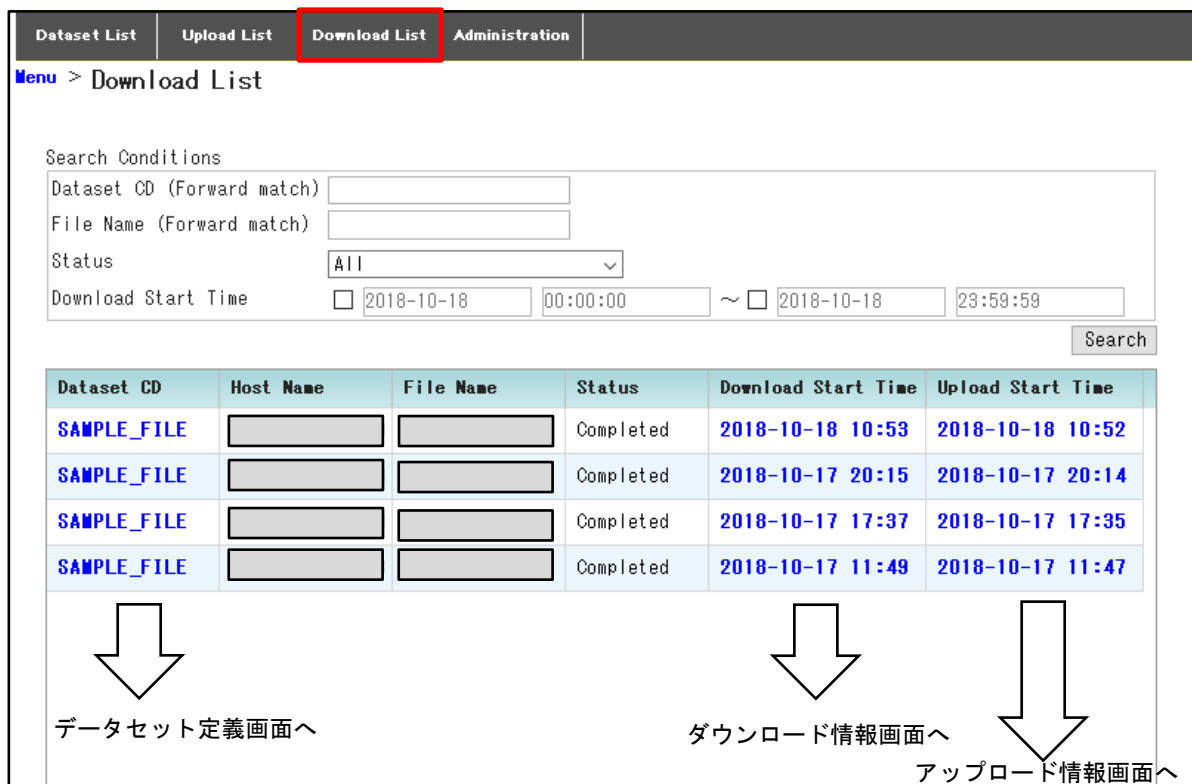
D01～D10 : 01～10 日前

M01～M12 : 01～12 か月前

6.5 ダウンロード履歴

ダウンロードが開始されると、ダウンロード履歴が作成されます。ダウンロード履歴を確認するには、ファイル転送設定サイトのメニュー「Download List」を選択します。

表示されたダウンロード履歴の Dataset CD をクリックするとデータセット定義、Download Start Time をクリックするとダウンロード情報、Upload Start Time をクリックするとアップロード情報が表示されます。



Menu > Download List

Search Conditions

Dataset CD (Forward match)

File Name (Forward match)

Status

Download Start Time ☐ 2018-10-18 00:00:00 ~ ☐ 2018-10-18 23:59:59

Dataset CD	Host Name	File Name	Status	Download Start Time	Upload Start Time
SAMPLE_FILE			Completed	2018-10-18 10:53	2018-10-18 10:52
SAMPLE_FILE			Completed	2018-10-17 20:15	2018-10-17 20:14
SAMPLE_FILE			Completed	2018-10-17 17:37	2018-10-17 17:35
SAMPLE_FILE			Completed	2018-10-17 11:49	2018-10-17 11:47

↓ データセット定義画面へ

↓ ダウンロード情報画面へ

↓ アップロード情報画面へ

表示されるステータスを以下に示します。

ステータス	状態	備考
Downloading	ダウンロード中	
Complete	ダウンロード完了	
Abort	ダウンロード異常終了	
Canceling	キャンセル要求中	利用者トリガー、Agent 処理待ち
Canceled	キャンセル完了	
WaitingRetry	リトライ要求中	利用者トリガー、Agent 処理待ち

6.6 ダウンロード情報

ダウンロード情報画面には、ダウンロード関連の各種情報が表示されます。

Dataset List	Upload List	Download List	Administration
Menu > Download Information			
Dataset Information			
Dataset CD	SAMPLE_FILE		
Dataset Name	サンプルファイル		
File Information			
File Name			
File Size	1.00 GB (1,073,741,824)		
Upload Length	1.00 GB (1,073,741,824)		
Upload Information			
Upload Start Time	2018-10-17 11:47:26		
Upload End Time	2018-10-17 11:48:43		
Refresh			
Download Information			
Download Host Name			
Download Agent	Windows Service		
Download User Name	サンプルユーザ1		
Download ID	74B8B2112923418EB46E773275729377		
Status	Completed		
Download Start Time	2018-10-17 11:49:42		
Download End Time	2018-10-17 11:51:10		

Web サイトにログインしたユーザが、当該データセットに対するダウンロード権限を持つとき、以下の操作が可能です。各種ボタンは実行可能な場合に表示されます。

ボタン	内容	備考
Cancel Download	ダウンロード実行中の Agent に中止を要求する。ステータスは Canceling となり、Agent が処理を中止すると Canceled となる	
Force Cancel	ステータスを Canceling から Canceled に強制変更する	Agent ダウン時に使用
Retry Download	Agent にダウンロードの再開を要求する。ステータスは WaitingRetry となり、Agent が処理を開始すると Downloading となる	